

(平成28年度)

社会福祉法人 やおき福祉会

事業報告書

<目 次>

1. 法人事業報告	3
2. 法人組織	7
3. 各事業所の事業報告	
(田辺市)	
① 紀南障害者地域生活支援センター	8
② やおき工房	13
③ ゆうあいホーム、すてっぷはうす、第2すてっぷはうす	17
④ 訪問介護支援センター	21
⑤ 陽だまり	23
⑥ ハモニティー	26
⑦ 紀南障害者就業・生活支援センター	30
⑧ 紀南地域活動支援センター	33
⑨ サンヒルズ、クローバー、オレンジ、ユーセブン、アップル	35
(田辺市：中辺路・本宮)	
⑩ 古道ヶ丘、くまのこ作業所	37
⑪ こどうの家、第2こどうの家	41
(田辺市：龍神)	
⑫ 龍の里作業所、西出張所	43
(白浜町)	
⑬ かへむ	47
⑭ ほわいとホーム	49
(みなべ町)	
⑮ すまいる、ぼのぼの工房	51
⑯ みなべ鹿島ホーム、浜市、サンフラワー	58
(すさみ町)	
⑰ いなづみ作業所	61
(上富田町)	
⑱ 南紀の台ホーム	64

法人 事業報告

28年度事業計画法人基本方針に沿って以下の点に取り組んだ。

1. 利用者視点に立った円滑な福祉サービス事業の展開

28年度は、利用者のニーズに基づきそれぞれのサービスにおいて社会福祉法人の強みを生かした支援の向上に努めるとともに、障害者差別解消法の施行を踏まえ、法人の福祉サービスを利用する人の人権や意思決定の尊重を重要な視点として取り組んできた。

- ① 相談窓口においては、法人内福祉サービスの枠を超え、他法人資源との調整等を実施し、
地域全体としての視点を持ったニーズ中心の支援を行った。
- ② グループホームについては、居住としての各種法令を遵守するとともに、安全・快適な生活を送ることを目的に、老朽化等への対応や設備整備、職住分離と円滑な運営をすすめていくための検討を行った。
- ③ 就労系事業所においては、工賃アップを目標とした授産努力を行いつつ、個々の利用者のニーズに応じて、一般就労や他事業所等へのレベルアップを図ってきた。生活面の支援も各事業所において一体的に実施した。
- ④ 余暇及び生きがいに対する取り組みについては、各事業所ごとに自治集団支援と各種交流やレク・旅行などに取り組んだ。また、夜間・旧祭日などにおいても個別の特性に応じ、相談や不安対応などを行った。
- ⑤ 地域格差を生まない取り組みとして、事業所間の連携を密に行うとともに、個別の対応を行った。
- ⑥ 日中活動、生活両面にわたって、利用者自身が選択・決定できるよう法人内外の連携でサービスを提供した。
- ⑦ 合理的配慮に基づく取り組みに関しては、法令施行初年度でもあり、明確な「合理的配慮」の提供は特になかったが、障害者問題全般の視点で、必要と考えられる課題について行政に提言等を行った。

2. 新たな財務運営

新会計基準移行2年目であり、特段の混乱もなく順調な処理を行うことができた。その他、

平成29年度から本格的な施行となっていた「新社会福祉法人制度」に基づき、準備をすすめる、大きなポイントであった「地域貢献」に提供される「余裕財産」の試算を行い、法人がすすめる社会福祉事業への充当内容について検討を図り、実施した。

- ① 事業を確実かつ適正に実施する為の、経営基盤の強化について第1次補正～第3次補正までの提案を行い、安定的な運営を確保するとともに、繰り越し額において経営基盤の強化を図ることができた。

- ② 各事業の利用状況について、月次に所長会議を通じて把握を行い、収支のバランスを確保しつつ、運営課題の検討を行うことができたが、利用状況と収支のバランスを分析・文章化には至らなかった。
- ③ 固定資産の取得及び大規模な施設整備に関しては、所長会議棟等でも検討を行い、計画的な施設整備費の申請について共有を図った。28年度の大規模修繕については、新社会福祉法人制度を睨みながら検討をすすめ、年度後半にGH物件の買い取り、屋根の修繕について具体化、新物件の調査等を行うとともに、本部をはじめ各事業所に必要な車両その他の整備を行った。
- ④ 上記の事業については利用者視点にたった検討を行ったが、計画的な投資を行うことについては今後の課題となった。
- ⑤ 前年、給与改定検討委員会を開催し改定を行ったが、その後の課題として、変形労働勤務への負担対策としての改定を行うとともに、人材育成（幹部）面と責任性等を勘案し所長の業務を参酌した改定を行った。

3. 人材の採用・育成と長く働き続けられるしくみづくり

平成28年度においても一定の離職者があり、採用を必要とする機会が年間通じてあった。27年度に策定した人事システムを施行した段階であるが、公募等において時期的な遅れなどもあり、今後、更に検討を重ね改訂していくことが必要と考えている。

4. 地域における関係機関との連携

各事業所ごとに、授産や行事を通じて拠点地域の関係団体・町内会・住民等との交流や企業との連携、行政・医療・保健・福祉団体との連携をさらにすすめてきた。そのほか、各種団体への役員や委員の派遣、講師等の派遣などあらゆる場面において協力関係を保つ取り組みを行った。

5. 社会福祉法人としての役割の推進

「社会福祉法人改革法案」の施行前年度であり、役員会・所長会議・研修等の機会を通じて周知と共有を図るとともに、具体的な改定等を実施した。評議員会・理事会の機構改革、地域貢献施策に関する事業計画への導入、財務諸表の公開、国の試算表に基づいた再投下可能資産の算定等を行いつつ、自己資産となる福祉事業への投資を検討した。次年度に向けては、役員等の責任を鑑みた役員報酬の検討や保険の拡充等について検討していきたい。

6. 法人20周年の取り組み

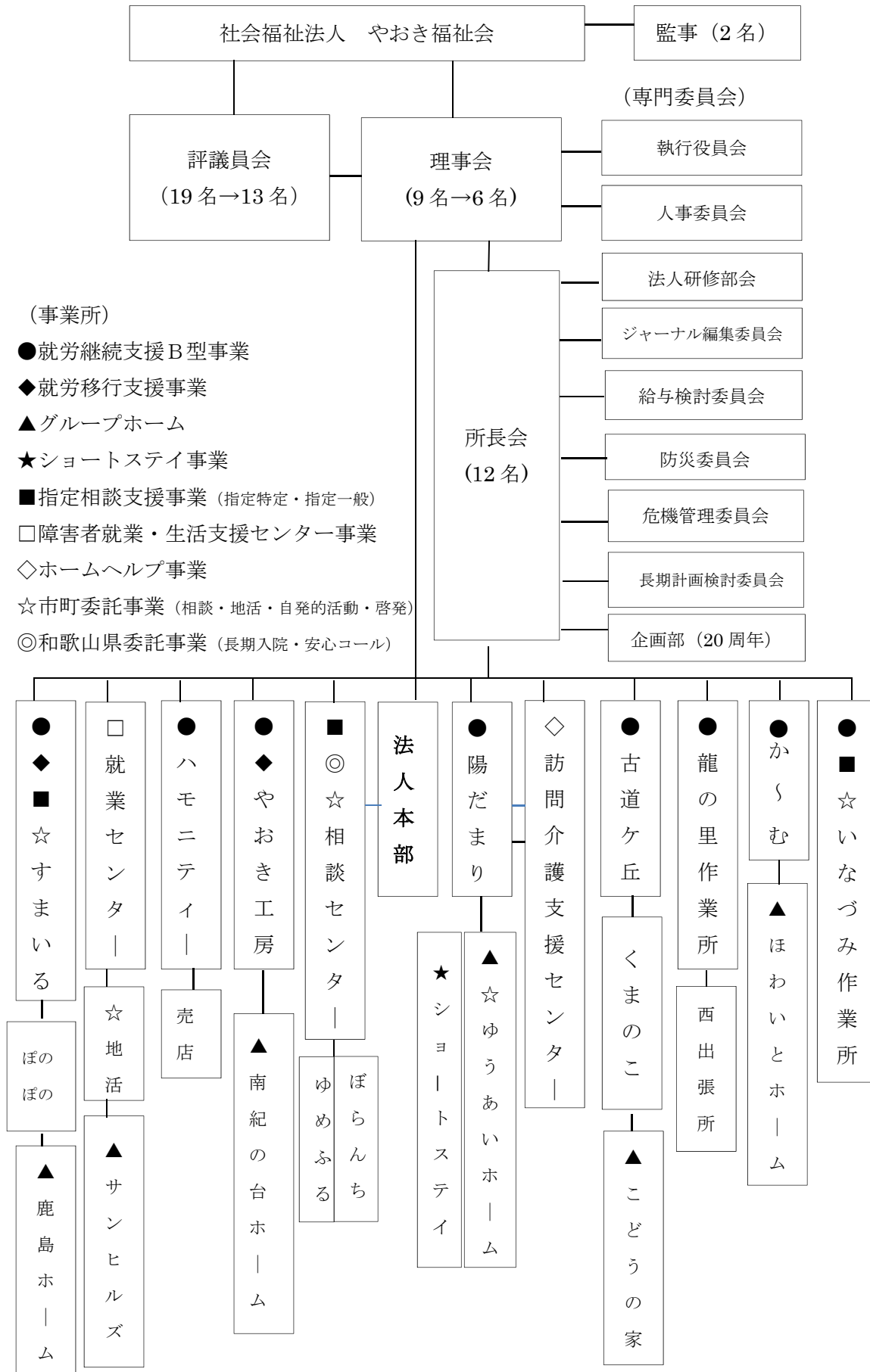
社会福祉法人認可後20周年の機会をとらえ、実行委員会形式により、各事業所の主任が中心となって、法人全体の交流を目的とした新年会を開催した。利用者・職員・役員等、300人近い参加が得られ、広域圏のため日々顔を合わせる機会少ない利用者・事業所間の交流がすすみ、盛況に終えることができた。

7. 法人行事報告

年月	役員会・行事等	広報・研修活動等
4月	01日 辞令交付式・10年勤続表彰式 12日 執行役員会 14日 理事長事業所訪問 18日 所長会議 26日 執行役員 27日 人事委員会	22日 第1回新人職員研修
5月	10日 執行役員会 16日 所長会議 17日 監事監査(処遇) 23日 監事監査(会計) 27日 人事委員会 28日 理事会・評議員会	13日 第2回新人職員研修 20日 第3回新人職員研修
6月	14日 執行役員会 20日 所長会議 20日 法人苦情解決委員会 28日 執行役員会 29日 人事委員会	4日 法人役員研修(新社会福祉法人制度)
7月	12日 執行役員会 22日 執行役員会 25日 所長会議	03日 福祉人材バンク説明会参加 12日 やおきジャーナル72号発行 19日 和歌山県新社会福祉法人制度説明会参加 19日 法人職員研修(リスクマネジメント)
8月	05日 理事会 19日 人事委員会 22日 所長会議 22日 法人苦情解決委員会 23日 執行役員会	06日 法人職員研修(動機付け面接)
9月	02日 人事委員会 13日 執行役員会 15日 人事委員会 23日 所長会議 27日 執行役員会	23日 人事システム説明会
10月	05日 人事委員会 11日 執行役員会	22日 やおきジャーナル73号発行

	17日 所長会議 17日 法人苦情解決委員会 25日 執行役員会 31日 理事会・評議員会・理事会	
11月	01日 法人内希望調書 08日 執行役員会 14～15日 所長ヒアリング 17日 人事委員会 19日 理事会・評議員会 21日 執行役員会、所長会議 30日 人事委員会	05日 ハートツリー十周年式典参加 07日 法人職員研修（動機づけ面接） 29日 法人研修（防犯）
12月	06日 執行役員会 15日 人事委員会 19日 所長会議 19日 法人苦情解決委員会 22日 執行役員会	03日 法人研修（動機づけ面接） 06日 社会福祉法人制度改正説明会参加 07日 学校求人挨拶周り 13日 人材バンク経営者セミナー参加 16日 法人研修（人権擁護）
1月	10日 執行役員会 17日 所長会議、執行役員会 21日 理事会・評議員会 24日 執行役員会	08日 幹部（主任）職員任用試験 12日 県労働局監査（雇用均等室） 15日 一般正職員任用試験 20日 法人20周年の集い
2月	07日 人事委員会 14日 執行役員会 20日 所長会議 25日 評議員会・理事会（第3次補正） 27日 法人苦情解決委員会 28日 執行役員会	07日 法人研修（災害対策） 12日 紀南福祉人材バンクへの参加 21日 県実地指導（法人本部監査） 24日 日高圏域からの見学（21人）
3月	06日 評議員選任委員会 14日 執行役員会 21日 執行役員会、所長会議 25日 評議員会・理事会（当初予算・事業計画）	15日 やおきジャーナル74号発行 20日 法人研修（動機づけ面接） 22日 和歌山県集団指導説明会参加 24日 法人職員研修（虐待防止）

8. 法人組織 (28年度の組織及び実施事業)



各事業所 事業報告

【指定特定・指定一般相談支援】

紀南障害者地域生活支援センター

1. 運営概況

平成 28 年度の相談支援事業については、前年度と変化なく、サービス等利用計画作成のための「指定特定相談支援」、病院からの退院を支援する地域移行支援サービス、地域移行後の定着を支援する地域定着支援サービスの「指定一般相談支援」、田辺市・白浜町の委託による「委託相談支援」及び白浜町委託の「自発的活動支援事業」、「障害者地域啓発等理解促進事業」に加え、和歌山県委託の「精神障害者夜間・休日あんしんコール事業」、「長期入院精神障害者地域移行促進事業」の 7 種 9 事業を行ってきた。

また、事業の実施に係り、地域自立支援協議会等との連携や事業運営のための連携会議等を設置して、地域のネットワークを活用したチーム支援を行った。課題としては、本部との事務所共有であったため、双方のニーズにおいて、独立した運営が必要と考えられた。

2. 事業報告

- ① 指定特定相談支援（計画相談支援 ※サービス等利用計画の作成とモニタリング）
福祉サービスの利用希望者に対し、サービス等利用計画の作成に関する相談支援を実施した。法人内事業所の利用者においては主としてそれぞれの事業所の兼任相談員がサービス等利用計画の作成を行い、相談センターとしてはサービス等利用計画の作成ができない他法人の利用者の計画を主として実施した。相談センターとして実施した計画相談者数は 59 人であった。

全国的に相談支援の課題となっている「給付額と実支援のバランスの悪さ」は 28 年度においても変わらず、質を保つ相談支援を実施するために苦慮する状況が続いた。

- ② 指定一般相談支援（地域相談支援）
精神科病院からの「地域移行支援（退院支援）」について、本年度、制度利用はなかった。ただし、制度利用は行わない独自の地域移行支援により、8 名が退院した。
退院後の安定、又は、地域生活の安定を図る「地域定着支援」については 2 名が制度を利用し、安定的な見守りを行った。

- ③ 市町相談支援事業（委託相談支援）
田辺市及び白浜町から一般的な相談支援の委託を受け、地域生活等に関するあらゆる相談を実施した。それぞれの委託形態は以下のとおりである。

（田辺市）

名称 田辺市障害児・者相談支援センター「ゆめふる」

所在地 田辺市民総合センター 2 階

運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会、和歌山県福祉事業団、田辺市社会福祉協議会
派 遣 やおきより専任相談支援専門員 1 名（常勤換算 1 名）
実績等 年間相談支援件数 8, 7 1 4 件（4 法人合計）

（白浜町）

名 称 白浜町障がい児・者相談支援室「ぼらんち」
所在地 白浜町 1 2 7 9 - 9
運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会
派 遣 やおきより兼務相談員 2 名（常勤換算 0. 8 名）デイサロン補助（週 1 日 6H）
実績等 年間相談支援件数 3, 7 3 3 件（2 法人計）

（相談センター事務所）

所在地 田辺市下三栖 1475-201 （本部敷地）
田辺市「ゆめふる」、白浜町「ぼらんち」での相談のほか、指定事務所である相談センターにおいては、ゆめふるに含まれない田辺市の相談として 1,101 件、圏域内のみなべ町 52 件、すさみ町 181 件、上富田町 34 件、圏域外の和歌山市 1 件、御坊市 1 件、いなみ町 3 件、串本町 40 件、新宮市 35 件、那智勝浦町 1 件、県外 59 件と広い地域からの相談に対応した。

④ 長期入院患者地域移行促進事業

和歌山県からの委託を受け、精神科病院に長期入院しており退院したいという意思が芽生えていない人を対象として退院意欲の喚起を目的として実施した。28 年度は 2 名の方を前年度から継続し、支援を行った。（支援回数 7 7 回）

退院への不安が根強く残り退院には至らなかったが、継続面談や外出支援を続けたことで、本人の意識は昨年度以上に大きく変化してきている。

そのほか、同事業において、地域体制整備を目的とした「支援体制整備事業」については、高齢資源への理解と連携をすすめることを目的に、11 月と 2 月に精神障害の特性に関する連携研修を実施した。（計 9 0 名の参加）また、夏祭りへの参加や地域の精神科医療を考えることをテーマに、精神部会と連携して医療センターや市・関係者との懇談を行うとともに職種間の連携会議を月 1 回開催し、チーム支援の円滑化を図った。

⑤ 夜間休日あんしんコール事業

和歌山県からの委託を受けニーズに基づいた相談を、登録制により実施した。28 年度の登録利用者は 1 9 名（中断者 4 名）、年間相談件数は 8 4 7 件であった。本年度において緊急対応はなく、電話による相談で、概ね、落ち着きが見られた。

相談体制については、相談センター管理者・相談支援専門員のほか、専門性を有す資格者（臨床心理士）を配置して相談にあたった。このほか、事業の運営にあたっては、職種間の連携会議を月 1 回開催するとともに、地域自立支援協議会に進捗状況を報告した。

⑥ 白浜町自発的活動支援事業

白浜町からの委託を受け、日中の福祉サービスの利用に馴染まない人たちに対して、週 1 回のデイサロンを提供するとともに、月 1 回、調理体験・茶話会・アウトドア（季節行事、ドライブ等）等のプログラム活動を行った。利用者数は、実人数 1 0 名、月

平均利用者数は23名であった。

⑦ 白浜町啓発等理解促進事業

地域住民への啓発ニュースの発行1回のほか、年4回の研修を実施した。(7月：差別解消法、10月：制度研修、11月：発達障害研修、2月：住民啓発講座)

3. 地域ネットワーク活動

① 西牟婁圏域自立支援協議会活動

西牟婁圏域自立支援協議会に参加し、他職種との連携により、地域の体制整備等に係る検討をすすめた。やおきは地域移行部会精神部会の事務局を担い、精神障害者の地域医療と地域生活における諸課題に対し、紀南こころの医療センターとの懇談会、田辺市との懇談会、体制整備研修、事例検討、県との懇談等を行った。

② 田辺市委託相談支援事業所協議会（ゆめふる運営協議会）活動

4法人による「ゆめふる」の協働運営について、毎月、協議を行った。

③ 医療・保健連携会議の開催

地域の精神科医療等の課題に関し、県から受託した夜間休日あんしんコール事業、長期入院患者地域移行促進事業の推進を目的に、医療・保健・福祉による連携会議を開催した。(計24回開催) そのほか、県の主幹する連絡会に年4回参加し、状況報告と課題提言を行った。

④ 白浜町委託相談協議会（ぼらんち会議）活動

「ぼらんち」の円滑な運営を目的に、相談員会議、全体会議を毎月開催した。また、町内に設置された「白浜町福祉サービス事業所連絡会」に参加した。

そのほか、町の課題について随時、町との協議・調整を行った。

4. その他の活動

① 法人研修や他機関の主催する研修に参加するとともに、事業所において事例検討等を頻繁に実施した。

② 大学及び専門学校から「精神保健福祉士」取得過程の学生を受け入れ「援助実習」を実施した。(仏教大学1名、京都医療福祉専門学校1名、大阪健康保育専門学校1名)

③ 行政及び諸団体に委員等を派遣し、支援協力等を行った。

5. 行事報告

年月	支援業務	行事等
4月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（平草原）
5月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（駅前コミュニティープラザ）
6月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、	デイサロン（コミックバスター優悦

	地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	館)
7月	サービス等利用計画の作成、一般相談(ゆめふる・ぼらんち)、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン(かき氷) 理解促進研修
8月	サービス等利用計画の作成、一般相談(ゆめふる・ぼらんち)、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン(串本海中公園) 夏祭り、医療センター懇談会、市長懇談会
9月	サービス等利用計画の作成、一般相談(ゆめふる・ぼらんち)、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン(パーベキュー)
10月	サービス等利用計画の作成、一般相談(ゆめふる・ぼらんち)、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン(御坊市E Eパーク) 理解促進研修
11月	サービス等利用計画の作成、一般相談(ゆめふる・ぼらんち)、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン(紅葉狩り) 高齢資源連携研修、理解促進研修
12月	サービス等利用計画の作成、一般相談(ゆめふる・ぼらんち)、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン(クリスマス会)
1月	サービス等利用計画の作成、一般相談(ゆめふる・ぼらんち)、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン(鍋パーティー) 精神部会関係者懇談会
2月	サービス等利用計画の作成、一般相談(ゆめふる・ぼらんち)、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン(パソコン教室) 高齢資源連携研修、住民啓発研修
3月	サービス等利用計画の作成、一般相談(ゆめふる・ぼらんち)、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	白浜町自発的活動支援事業(デイサロン: 外食)

6. 数値実績(市町委託相談・指定特定相談・指定一般相談)

項目	ゆめふる(4法人)	ぼらんち(2法人)	相談センター
職員数(常勤換算)	ゆめふる全体(7人) やおき派遣数(1人)	ぼらんち全体(2.6人) やおき派遣数(0.8人)	1.2人
相談支援件数計	8,714件(4法人)	3,733件(2法人)	※4,594件 ぼらんちと重複分あり。

(県委託事業)

事業 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
長期入院地域移行 事業 (2人)	6	6	8	7	8	5	7	6	6	7	5	6	77
夜間休日あんしん コール (19人)	58	61	71	77	91	72	74	67	55	76	78	67	847

(相談センターの年代別相談件数)

(障害内訳：身体 84、知的 572、精神 3873、発達 26、高次脳 8、難病 13、不明 18)

実人数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
136人	0	642	1,004	1,217	1,023	654	0	2

【就労移行支援・就労継続支援B型】

やおき工房

1. 運営概況

今年度も就労移行支援事業（定員 10 名）と就労継続支援事業 B 型（定員 24 名）の 2 事業の多機能型として運営を行った。

就労移行では、所内作業のメインの訓練として給食センター業務を位置づけた。時間管理・数量・分量の管理や食品・環境衛生の管理、また作業では調理員・他の利用者との声掛け・協働が必要となり有効な訓練となっている。一方で就労移行は利用期間が 2 年と限られているため、利用 2 年目には職場実習が中心になっていくため、厨房作業の熟練化が図られないことも課題である。

就労継続 B 型では、所内作業・かしのき作業棟・施設外就労と 3 ヶ所に分かれての作業となりシフトが困難になることもあった。年度途中からはかしのき作業棟での作業を月・火・水の週 3 日午前中のみ限定し対応した。そのため、かしのき作業棟の有効活用という意味では十分図られていない。また、障害年金と作業所工賃での生活に行き詰まりを見せる利用者や高工賃を希望する利用者も出てきており、今年度の利用者の内 3 名が A 型事業所に移ることとなった。

就労移行では、利用者数は 14 名、延べ開所日数 270 日、延べ利用者数 1,886 人、1 日平均通所者数 7.0 人であった。利用者の障害種別（重複含む）は、知的障害 10 名（71%）、精神障害 3 名（21%）、身体障害 1 名（7%）、発達障害 4 名（29%）であった。

就労継続支援事業 B 型では、利用者数は 37 名、延べ開所日数 250 日、延べ利用者数 5,504 人、1 日平均通所者数 22.1 人であった。利用者の障害種別（重複含む）は、精神障害 28 名（76%）、知的障害 7 名（19%）、身体障害 3 名（8%）、発達障害 5 名（14%）であった。

2. 事業報告

①就労支援活動

就労移行

- ・延べ 14 名が利用し、その内 5 名が就職し、利用延長した者が 2 名、また就労継続 B 型に移った者が 1 名、他法人の就労継続 B 型に移った者が 1 名であった。就労アセスメントが始まり、直 B を利用するための利用者は 1 名であった。
- ・給食事業では、厨房業務に慣れた利用者が就職や職場実習により従事できなくなり、新たな利用者の育成が間に合わないこともあった。また、障害特性により厨房業務に不向きな利用者もおり、利用期限のある就労移行で行っていく上での課題もある。
- ・発達障害者支援センターポラリスと連携し、巡回相談を受ける中で、発達障害の特性の理解に努め、利用者の支援のあり方を見直した。
- ・就労スキル向上のために、導入を検討していた SST については不十分であった。職場

マナー講座等の外部研修に参加した。

就労継続 B 型

- ・ 所内作業として、工賃アップ及び作業スキル向上の取り組みとして、バスマットタイル貼り作業を請け負った。
- ・ 施設外就労として「上富田スポーツセンタートイレ清掃」「パルコ 21 ゴルフボール補充作業」「紀伊民報の帯かけ作業」「JA 紀南梅の種抜き作業」を行った。
- ・ かしのき作業棟では梅の種抜き作業を行った。(月、火、木、金)
- ・ ヤーヤーまつり (田辺市)・空の日フェスタ (白浜町)・たな博 (田辺市)・ふれあい文化祭 (田辺市)・大谷文化祭 (上富田町) でのバザー出店を行った。
- ・ 今年度の退所者 6 名の内、3 名が A 型事業所に移り、1 名が法人内の B 型に移り、1 名が他法人の B 型に移った。介護保険のデイサービスに移った者が 1 名、自営業に戻った者が 1 名であった。

②生活支援活動

- ・ 自治会活動を支援し、自治会役員を中心にレクリエーション等の企画の立案・実施・会計等が行えるようサポートした。
- ・ 土曜開所 (10 回) を実施し、余暇支援に努めた。
- ・ 健康診断を年 1 回行い、精密検査等が必要な利用者については。家族等と連携しながら受診同行を行う等、健康管理の支援に努めた。
- ・ 防災訓練を年 2 回 (6 月・3 月) 実施し、消火器の扱い方講習や消火訓練を受けたり、土砂災害対策の講義及び DVD 鑑賞を受けたりと防災意識を高められるように努めた。
- ・ 公共交通機関のアクセスが悪いため、自力通所が困難な利用者については送迎支援を
実
施した。午前 4 便、午後 4 便の送迎体制で煩雑になってきている。

③個別支援関係

- ・ 利用者の希望やニーズ把握に努め、個別支援計画を作成し支援に当たった。定期的
支
援の見直しを行った。必要に応じて家庭訪問を実施し、家族の意見の聴取にも努めた。
- ・ 必要な利用者に対して受診同行や服薬管理支援を行った。
- ・ 必要な利用者に対して原付免許の取得支援を行った。(1 名)
- ・ A 型事業所の利用を希望する利用者には、見学の同行や利用の調整を行った。(ララロカレ 1 名、あゆみ福祉農園 2 名)
- ・ グループホームの利用を希望する利用者に対して、利用調整を行った。(南紀の台ホーム 1 名、ゆうあいホーム 1 名)
- ・ 介護保険サービスが必要な利用者については。介護保険の申請やサービス利用調整等を行った。(デイサービス 1 名)

3. 地域交流活動

- ・大谷文化祭（3/12）を第41回大谷分館作品展と共同開催して、お餅配布・模擬店・ストラックアウト大会やスーパーボールすくい等を実施して地域住民との交流を図った。地域の子どもたちが楽しみにする恒例行事となっている。
- ・バザー活動（6ヶ所）を行い、地域交流・地域啓発に努めた。

4. その他の活動

- ・毎週水曜日は南紀の台ホームの夜間支援のバックアップを行った。
- ・保護者懇談会（3/18）を開催し、9名の保護者に参加いただいた。家族としての意見を作業所運営に生かす良い機会となった。
- ・はまゆう支援学校高等部3年生6名（男性5名、女性1名）を就業体験で受け入れた。
- ・紀南看護専門学校3年生29名を精神科看護実習で受け入れた。
- ・西牟婁自立支援協議会 就労支援部会に加盟し、

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	お花見（白浜町平草原） 紀南看護学校看護実習5名	10月	たな博バザー（田辺市） 一泊旅行（那智勝浦・白浜町） 紀南看護学校看護実習10名
5月	エネルギーランド・とれとれ市場（白浜町） チャレンジデー（上富田町） 紀南看護学校看護実習4名	11月	運動会（田辺市） 精神障害者バレーボール大会（和歌山市）
6月	スポレク（田辺体育センター） 防災訓練 はまゆう支援学校3年生就業体験4名 紀南看護学校看護実習5名	12月	忘年会 ボウリング&食事（田辺市） はまゆう支援学校3年生就業体験2名
7月	花王工場見学・和歌山イオン（和歌山市） てくてくパーティー（田辺市）	1月	鬮鶏神社初詣&喫茶（田辺市） やおき20周年新年会（田辺市）
8月	ヤーヤー祭りバザー出店（田辺市） 流しそうめん交流会（上富田町）	2月	観梅（みなべ梅林） ふれあい文化祭バザー（田辺市） 防災訓練『土砂災害講習他』
9月	空の日フェスタ（白浜町） 紀南看護学校看護実習5名	3月	映画鑑賞会（ジストシネマ田辺） 大谷文化祭（上富田町） 健康診断（白浜はまゆう病院） 保護者懇談会 年度末食事会（田辺かんぼの宿）

6. 数値実績

事業種別	就労移行支援		就労継続支援B型	
	27年4月	28年3月	27年4月	28年3月
定員	10人	10人	24人	24人
実利用者数	11人	8人	31人	31人
1日平均利用者数	9.52人	6.24人	19.0人	23.26人
職員常勤換算配置数 ※重複掲載あり	4.9人	4.7人	6.5人	6.8人
年間稼働日数	総稼働日数 290日	休日開所日数 30日	総稼働日数 251日	休日開所日数 10日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)	科目	収入(円)
	給食事業	6,714,890	受託作業	2,214,600
	職場実習	521,316	内職作業	1,540,166
	受託作業	189,000	物品販売・バザー	467,618
	内職作業	299,287		
	物品販売・バザー	113,420		
	計	7,837,913	計	4,222,384
工賃実績(一人当たり)	当初目標 なし	実績 28,659円 (時給325円)	当初目標 10,370円	実績 10,953円 (時給181円)

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	4	10	4	8	7	3	36
女		3	2	3	5	2	15
計	4	13	6	11	12	5	51

【グループホーム】

ゆうあいホーム

1. 運営概況

平成28年度はゆうあいホームの食事提供の部分を業者委託（フジコーポレーション）から、27年度以前まで行っていたように調理専門員を配置し食事提供を行った。

業者委託の時は、冷凍食材がメインのおかずや副菜で使用されている事が多く、食事を残す利用者が多くいたが、調理専門員が食事を提供するようになってからは、ほとんどの利用者が食事を残さずに食べる事が出来ていた。

また、利用者への支援については、利用者のA氏（認知症）が早朝の時間帯に、これまで数回行方不明で警察沙汰になる事があったので、早朝専門員を配置した事によって、28再度は一度もA氏が行方不明になる事はなかった。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・毎月SST（社会生活技能訓練）を行い、着替えや入浴など日常の生活能力を維持出来るように支援を行った。
- ・頻繁にトイレ詰まりが発生するなど、修繕が必要な案件が多数起こったので、緊急で自治会を開き、毎月行っているSSTの再確認を行った。

②個別支援関係

- ・高齢化及び重度化等で金銭管理や服薬管理等の個別のかかわりが必要な利用者が増加しており、28年度はゆうあいホーム、すてっぷはうす計23名の利用者の内、22名に対して金銭管理及び服薬管理の個別支援を行った。
- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。

3. 地域交流活動

- ・のぞみ園、希望の木、陽だまりと連携してやおき夏祭りを開催し、近隣住民（たきない町、南紀の台）や学生（紀南看護学校、熊野高校）ボランティアとの交流を深める事が出来た。

4. 事業活動内容

I. 障害者当事者活動支援

- (ア) やおき祭り

場 所：ゆうあいホーム駐車場

日 程：平成 28 年 8 月 20 日（金）18：00～20：00

参加人数：350 人

経 費：175,250 円

内 訳	金 額	内 容
その他の費用支出	100,449 円	材料費
その他の費用支出	54,960 円	電気設備費
保険料	5,000 円	傷害、賠償保険
賃借料	1,000 円	鉄板レンタル代
水道光熱水費	3,841 円	電気、ガス、水道代
印刷製本費	5,000 円	コピー代
通信運搬費	5,000 円	電話、郵送代

(イ) アートフラワー教室

場 所：ゆうあいホーム食堂

日 程：平成 29 年 2 月 11 日（土）

講 師：辻内紀子

参加人数：17 人

経 費：72,138 円

内 訳	金 額	内 容
その他費用支出	11,138 円	講師謝金 10,000+源泉 1,138
その他費用支出	60,000 円	材料費
印刷製本費	1,000 円	コピー代

小計 247,388 円

II. 障害者ボランティア育成

(ア) 障害者との地域啓発・体験交流会

①場 所:和歌山県立情報交流センター・ビッグU 研修室1

日 程：平成 28 年 12 月 16 日（金）

講 師：松原卓氏

内 容：障害者差別解消への取り組み

参加人数：41 名

経 費：52,612 円

内 訳	金 額	内 容
その他費用支出	33,411 円	講師謝金 30,000+源泉 3,411
印刷製本費	12,800 円	垂れ幕代
賃借料	6,250 円	会場費
その他費用支出	151 円	お茶代

小計 52,612 円

Ⅲ. 障害者ボランティア団体活動支援

(ア) 親子サークル「カンガとルー」活動支援

日 程：平成 28 年 6 月 14 日 (火)
平成 28 年 7 月 12 日 (火)
平成 28 年 8 月 9 日 (火)
平成 28 年 9 月 13 日 (火)
平成 28 年 10 月 11 日 (火)
平成 28 年 11 月 15 日 (火)
平成 28 年 12 月 13 日 (火)
平成 29 年 1 月 10 日 (火)
平成 29 年 2 月 14 日 (火)
平成 29 年 3 月 14 日 (火)

場 所：トモジャズダンススタジオ

講 師：廣田智子氏

内 容：ダンス教室

参加人数：延べ 122 名 (平均 12 人)

経 費：200,000 円

内 訳	金 額	内 容
その他の費用支出	100,000 円	10,000×10 回 (講師分)
その他の費用支出	50,000 円	5,000 円×10 回 (アシスタント分)
賃貸料	50,000 円	5,000 円×10 回 (会場費)

小計 200,000 円

合計 500,000 円

5. その他の活動

陽だまりと連携してクラブ活動 (ソフトバレーボール、農業、釣り) を積極的に行い、その中でも釣りに強く興味を持っている利用者が多く、定期的に釣りに行った。

6. 行事報告

年月	行事等	備考
4 月	ドライブ、カラオケ	
5 月	白浜ドライブ、こいのぼりバザー	
6 月	防災訓練、買い物支援	
7 月	BBQ、ドライブ	
8 月	大掃除、やおき祭り、大塔夏祭り	

9月	空の日フェスタ	
10月	外食、ドライブ	
11月	ソフトバレー大会、グラウンドゴルフ大会、保護者懇談会	
12月	大掃除、クリスマス会、忘年会	
1月	外食、ドライブ	
2月	ふれあい文化祭、防災訓練	
3月	健康診断、買い物支援、忘年度会	

7. 数値実績

ホーム名	ゆうあいホーム		すてっぷはうす	
	28年4月	29年3月	28年4月	29年3月
定員	20人	20人	6人	6人
実利用者数	20人	20人	5人	5人
職員常勤換算配置数	5.4人	5.8人	1.5人	1.5人
年度中の入退所	入 所 退 所	1人 2人	入 所 退 所	人 人
利用市町村内訳	田辺市	8人	田辺市	3人
	白浜町	1人	白浜町	人
	みなべ町	2人	みなべ町	1人
	上富田町	2人	上富田町	人
	すさみ町	1人	すさみ町	人
	その他	4人	その他	1人

【ホームヘルプサービス】

訪問介護支援センター

1. 運営概況

28年度は新たに同行援護事業を取り入れ、視覚障害者に対して外出支援を行った。また、慢性的なヘルパー不足は解消しておらず、現状では新規利用者を多く受ける事は出来ないの、利用者数はこの3年でほとんど横ばい状態である。

但し、通院介助や移動支援を希望する利用者は増加傾向にあったので、前年に引き続き28年度も通院介助や移動支援を希望する利用者に対して、積極的に受け入れを行った。

2. 事業報告

①身体介護（居宅介護・訪問介護）

- 入浴介助…入浴の介助又は、入浴が困難な方は体を拭く（清拭）などを行った。
- 排せつ介助…排せつの介助、おむつ交換を行った。
- 食事介助…食事の介助を行った。
- 体位変換…体位の変換を行った。

②家事援助（居宅介護・訪問介護）

- 調理…利用者の食事の用意を行った。
- 洗濯…利用者の衣類等の洗濯を行った。
- 掃除…利用者の居室の掃除を行います。
- 買い物…利用者の日常生活に必要な物品の買い物をを行った。

③通院介助（居宅介護）

- 通院先での受診等の手続き、移動等の介助を行った。

④移動支援（居宅介護）

- 移動時及びそれに伴う外出先において必要な移動の支援を行った。

⑤同行援護

- 視覚障害者を対象とした外出支援を行った。

⑥個別支援関係

- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービス

の提供を行った。

3. 数値実績

施設名	訪問介護支援センター			
利用者数	28年4月 40人	29年3月 36人	自立支援 32人	介護保険 4人
登録ヘルパー数	28年4月 9人	29年3月 9人		
年度中の入退所者	入 所 退 所	4人 4人		
	休 止 中	4人		
利用市町村内訳	田辺市	30人	田辺市	29人
	白浜町	4人	白浜町	5人
	みなべ町	6人	みなべ町	2人
	上富田町	人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	人
	その他	人	その他	人

【就労継続支援 B 型】

陽だまり

1. 運営概況

28年度は2名が退所した後に2名の入所があったので、登録人数29名からは変動がなかった。

また、陽だまりの利用者の多くは長期（20年）の引きこもり、または長期の入院から退院された方が多く、なかなか自力で通所が出来ないとの相談が多く、陽だまりとしては法人の障害者雇用枠の部分で新たに送迎専門員を配置し、通所の不安があった利用者に対して、きめ細やかな送迎支援を行う事が出来た。

また、反対に IADL（手段的日常生活活動能力）の再取得の為に、希望する利用者に対してはバスやバイク等の乗る練習を行い、5名の利用者が自力で通所が出来るようになった。

2. 事業報告

①就労支援活動

就労希望のメンバーに対しては、基本的に就労移行支援を行っている、やおき工房やすまいるに繋ぎ、法人外希望の利用者に対しては A 型事業所等へ紹介し、メンバーがステップアップ出来るように支援を行った。

②生活支援活動

- ・挨拶の練習や着替え洗顔など ADL（日常生活動作能力）向上に繋がるよう支援を行った。
- ・自力で出来る事が増えるように、通所支援（バス、自転車の練習）を行った。

③個別支援関係

- ・個別支援計画を作成し、サービス利用者の課題や意向を確認し合い、定期的に見直しを図りながら支援を行った。
- ・利用者の日々の状態を把握し、必要な支援及び助言を行うと共に、生活相談も継続して行った。また、必要に応じて、医療機関受診同伴や、関係機関との連携を図った。

3. 地域交流活動

- ・のぞみ園、希望の木、ゆうあいホームと連携し、前年に引き続きやおき夏祭りを開催して、たきない町や南紀の台の住民の方々、または学生ボランティアとして紀南看護専門学校や熊野高校の学生が多数参加され、利用者、職員、利用者家族も含め二年連続で総勢350名を超える参加者となり、地域（たきない町、南紀の台）の夏の恒例情事として認知されるようになった。

4. その他の活動

・土日や祝祭日など休みが来る度に、夜更かしなどして生活リズムが乱れて調子を崩すメンバー多く、また、メンバーからも休みの日は時間を持って余して何をしたら良いか分からずに困っているとの相談が開所当初（6年前）から非常に多くあったので、28年度はほぼ毎月互って月一回の休日開所（土曜日）を行い、調理実習などの余暇支援を行った。

・クラブ活動に力を入れ、陽だまりではソフトバレーボール、農業、釣りクラブがあり各クラブが成果を出せるように日々切磋琢磨している。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見(平草原)・DVD鑑賞(レク)	
5月	パビリオンジィ、釣り	
6月	紫陽花鑑賞(平草原)、外食(焼肉)	
7月	納涼会(素麺・寿司・かき氷)、釣り	
8月	やおき夏祭り、外食(和食)	
9月	和歌山イオンモール、誕生日会	
10月	BBQ、カラオケ	
11月	外食(スイーツ&バイキング)、バレー大会	
12月	USJ(一泊旅行)、クリスマス会・忘年会	
1月	初詣&外食、20周年式典	
2月	みなべ梅林観梅、カラオケ	
3月	忘年会会、ちゃんこ鍋パーティ	

6. 数値実績

事業種別	(例) 就労移行支援	就労継続支援B型	
		28年4月	29年3月
定員		20人	20人
実利用者数		29人	26人
1日平均利用者数		20.9人	21人
職員常勤換算配置数		5人	5人
年間稼働日数		総稼働日数	休日開所日数

			252日	10日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)	科目	収入(円)
			商品売上	217,890
			農園売上	900
			受託作業	2,634,801
			雑収入	89,778
	計			2,943,369円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 円	実績 円	当初目標 5,500円	実績 7,200円

年代別表	20代	30代	40代	50代	60代	
男性	1名	2名	3名	5名	3名	
女性	2名		6名	6名	1名	

【就労継続支援 B 型】
ハモニティー

1. 運営概況

平成 28 年度ハモニティーは、定員 20 名、登録者 26 名でスタートする。1 年間での新規利用者数は 4 名で、退所者数は 5 名であった。

① 性別・年代別

	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	合計
男	2	2	7	3	3	17 名
女	0	3	2	1	2	8 名
合計	2	5	9	4	5	25 名

② 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	20 名
知的障害	4 名
身体障害	1 名

③ 利用実績(月別)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用者数	20.4	19.4	20	19.8	19.5	19.5	19.1	19.3	19.9	19.1	18.8	19.5
開所日数	20 日	19 日	22 日	20 日	19 日	19 日	20 日	20 日	19 日	18 日	20 日	22 日

(年間平均 19.5 人/月)

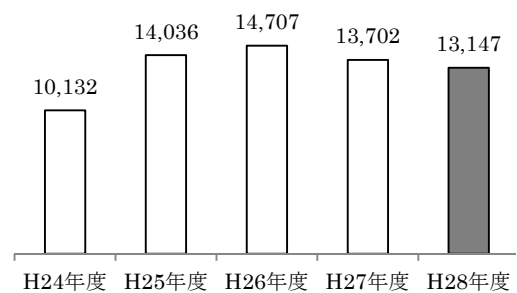
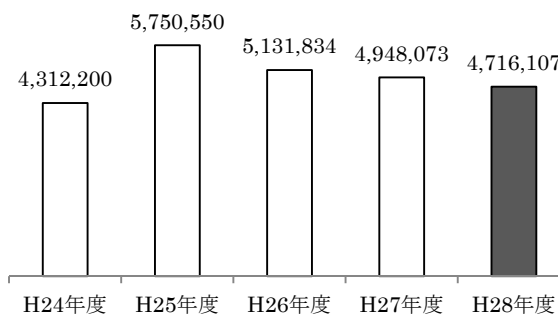
2. 事業報告

① 就労支援活動

- ・ 自主製品(八起焼)製造販売 ・印刷物受注販売 ・古紙、空き缶、古着回収
- ・ 受託作業(日用商品パッケージ、電子部品パレット入れ、新聞帯封、売店)
- ・ 職場実習

(事業収入推移)

(月額平均工賃推移)



掃除や食器洗いなど、日常生活を送るうえで最低限必要とされるものについては、個々や当番制において実施してきた。

自治会活動においては、週 1 回の頻度で、レクリエーションや学習会、茶話会などを実施し利用者同士の親睦や楽しみの機会を設けてきた。利用者の体力や健康維持の点では、ラジオ体操を日課とし、スポーツレクリエーションも定期的実施してきた。

③個別支援関係

利用者との定期的な面談や相談、日々の状態の把握に努め、自己実現に向けた個別支援計画の作成、確認を継続しておこない支援をおこなってきた。また、支援の方向性について、職員間で共有できるよう、週 1 回の職員会議や個別支援計画作成会議を定期的実施してきた。

新規利用希望者については、ゆめふる、こころの医療センターから、見学や体験利用の受け入れをおこなってきた。

65 歳以上の利用者が増えてくるなかで、地域包括支援センターや訪問介護事業所と連携する機会が多くなってきた。

3. 地域交流活動

古紙等リサイクル事業を通し、多くの地域住民の方々に協力をいただくことができた。古着リサイクルでは、毎日のように地域の方が事業所を訪れてこられる。

4. その他の活動

文里自主防災会主催の地域合同避難訓練に参加、非常災害に備える貴重な訓練の機会となった。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	7 14 21	外食レク スポレク 買い物	とれとれ亭 大屋体育館 ユニクロ、セリア
5	12 19	釣り 買い物	芳養堤防（サビキ釣り） パピシ、しまむら
6	2 9 16 30	ドライブ スポレク 買い物 釣り、カラオケ	白浜方面、とれとれ市場 大屋体育館（か〜むと合同） パピシ、セリア 芳養堤防、メロディーホール
7	7 21 14 28	茶話会 釣り、カラオケ エアコン工事 利用者賞与支給	かき氷 文里湾、メロディーホール ハモニティー本棟
8	4 10 18	釣り、カラオケ 夕涼み会 スポレク	芳養堤防、メロディーホール ハモニティー駐車場にて BBQ 大屋体育館
9	1 8 14	釣り、カラオケ ブドウ狩り 自殺予防啓発運動	文里湾、メロディーホール 紀南観光ぶどう園 オーシティーにてチラシ配り
10	6	買い物	パピシ、ユニクロ、セリア

	13 14 18 20 20	メンバー1泊旅行 // 安全運転管理者講習 県指導監査 スポレク	淡路島 徳島鳴門大橋 大屋体育館
1 1	11 17 24 24	わされん運動会 ドライブ ゴルフコンペ 避難訓練	田辺スポーツパーク 近露方面 やおき後援会（参加賞に八起焼） 火災発生時の避難、初期消火訓練
1 2	1 8 15 22 22	買い物 カラオケ、ドライブ 利用者忘年会 クリスマス会 利用者賞与支給	パピシ、ユニクロ とれとれ市場方面 かんぼの宿
1	5 12 19 20 26	初詣、消防出初式 買い物 スポレク やおき 20周年記念式典 茶話会	闘鶏神社、扇ヶ浜 パピシ、ユニクロ、セリア 大屋体育館 ビッグユー ぜんざい、おしるこづくり
2	2 9 16 18 23	スポレク 買い物レク 観梅 ふれあい文化祭 避難訓練、防災学習	大屋体育館 パピシ、ユニクロ、セリア みなべ梅林へ ハナヨアリーナ 巨大地震、津波を想定
3	3 10 16 25	メンバー健康診断 メンバー健康診断 いちご狩り 保護者懇談会	白浜はまゆう病院 白浜はまゆう病院 リコリーナ 保護者 7名参加

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
	28年4月	29年3月
定員	20人	20人
実利用者数	26人	25人
1日平均利用者数	20.4人	19.5人
職員常勤換算配置数	4.8人	4.8人
年間稼働日数	総稼働日数 238日	休日開所日数 0日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	受託作業	3,238,026円
	印刷事業	709,628円
	古紙等リサイクル事業	490,772円
	製菓自主製品事業	209,799円

	バザー等	67,882 円
		計 4,716,107 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 15,500 円	実績 月額 13,147 円

【障害者就業・生活支援センター事業】

紀南障害者就業・生活支援センター

1. 運営概況

田辺市及び西牟婁郡とみなべ町圏域とし、障がい者の方々（難病を含む）の就業と就業に伴う生活に関するニーズに基づき「働き続けられる」ことを目標にし、関係機関との連携にて支援を行ってまいりました。

2. 事業報告

例年通り、当初計画と当事者のニーズに沿って就業・生活支援を行ってまいりました。長期化している難ケースへの対応としては、高齢化による能力低下がみられる当事者のへの支援継続（生活面での支援増）、昨年度の離職者の再就職支援と定着指導、マッチングできなかった方のへ再就職支援が主となっております。マッチングに関しては実習時には問題なかった対人関係の原因が多く、当事者スキルとしては高く感じられる方ほど対人問題での離職につながるケースが多くあります。また、発達障害者の支援に関しては多様化特性と、成育歴も要因と考えられる生活スキル・コミュニケーションスキルの低さによる初歩的な支援の増加があり、就職前の実習に行く段階での支援困難状態が続いています。このような案件に関しては当初より関係機関である和歌山県発達障害者支援センター「ポラリス」との協議・講習などを継続し対応を行っております。

A型事業所からの一般就職希望者、生活レベル向上のための転職希望者、離職者の再就職相談なども増加傾向であり、生活面での所得補償を考えると上記での報告でもあったマッチングに関してはかなりの協議を要しています。

①就労支援活動

- (1) 運営協議会開催【3月8日】
- (2) 指導者研修会への参加
（全国就業支援ネットワーク研修6月）【仙台市 6/26～6/28】
- (3) 県下就業・生活支援センターネットワーク研究会参加
【橋本市 6/24・田辺 10/14・海南 2/15】
- (4) 特別支援学校連絡会開催
【6月～8月にて当該年度卒業生の動向情報確認会議】
- (5) ハローワークとの連絡会議開催
【5/25】【3/13】
- (6) 各種就労支援制度学習会開催と活用
【職安との連携にて情報収集、センター会議内にて学習】
- (7) 発達障害者・高次脳機能障害者・難病者への就労・相談支援強化

【発達障害者支援センター相談員による講習 7/12、8/30,10/14】

(8) 西牟婁圏域自立支援協議会就労部会活動

【一般就労部会：施設からの就職支援会議、圏域 JC 連携】別紙参照

(9) 職場定着者促進のための在職者の交流活動

【ワーカーズ活動参照】

(10) 職場定着のための訪問支援強化

労働局より定着支援ワーカーの加配あり

【四半期報告参照】

(11) A 型事業所との連携による一般就職相談・定着支援

・A 型事業所からの就職相談対応【就職者、2 名】

②生活支援活動

1. 医療、保健、福祉、労働、特別支援学校、行政との連携
2. 就労自助グループの育成（ワーカーズクラブ）
3. 相談事業所との連携
4. 就労型グループホームのバックアップ体制の確立
5. 行政書類手続き支援、代行

③個別支援関係

医療同行、生活相談、就業相談については必要応じて随時行う。

④地域交流活動

町内会活動参加【秋祭り参加】

⑤その他の活動

特になし

3. 行事報告

ワーカーズ活動

月	行事	備考
7 月	BBQ	50 人
9 月	研修（コミュニケーション研修）	45 名
10 月	1 泊旅行	51 人
12 月	忘年会	44 人
2 月	研修（交通安全、避難訓練）	38 人

毎月第一火曜日 ワーカーズ会議（12 回開催 平均参加者 42 名）

毎週木曜日 ワーカーズ運動（42 回 平均参加者 12 名）

4. 数值実績

登録者数	206名（内新規36名）	相談・支援件数	10,065件
職場実習・職業準備訓練	53件	就職者数	37名

【田辺市地域活動支援センター事業】

紀南地域活動支援センター

1. 運営概要

例年通り田辺市より委託を受け施設通所になじまない方々の場所として活動をおこなってきた。

2. 事業報告

①就労支援活動

日中作業は基本的に自由であるが、当事者のニーズより内職作業に取り組む。ルアー削り・缶バッジ制作などを行い、3ヶ月に一度のイベントなどにも取り組み、所属感の向上を図った。

また、希望者については職場実習として請負清掃作業への斡旋、就職希望の方への就労支援も行い、28年度は、一般就職（短時間含む）2名となっている。

②生活支援活動

レクレーション活動を通じて調理実習、外出活動を行ってきた。

③個別支援活動

受診同行、生活相談については当事者ニーズに伴い対応。

3. 地域交流活動

特に無し

4. その他の活動

特に無し

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	スポレク（高雄中）	10月	スポレク（高雄中）
5月	スポレク（高雄中）	11月	スポレク（高雄中）
6月	スポレク（高雄中・上秋津） 調理実習（たこやき）	12月	スポレク（高雄中） 大掃除・餅つき
7月	スポレク（高雄中・上秋津）	1月	スポレク（高雄中）

8月	スポレク（高雄中・上秋津）	2月	スポレク（高雄中） 遠足（アドベンチャーワールド）
9月	スポレク（高雄中・上秋津）	3月	スポレク（高雄中）

6. 数値実績

（ア）月別平均利用者

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
登録者数	24	22	24	25	25	26
開所日数	20	21	22	20	20	20
平均利用者数	9.25	8.52	9.77	10.20	10.84	10.25

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	24	22	23	25	25	25
開所日数	20	20	19	19	19	20
平均利用者数	10.05	9.25	8.95	11.42	11.89	11.3

（イ）市町別（3月末）

田辺市	みなべ町	上富田町	すさみ町	白浜町
22人	0人	3人	0人	0人

（ロ）障害別（3月末）

知的	精神	身体	発達	その他
8人	16人	0人	0人	1人

（ハ）年齢別（3月末）

～20歳	20代	30代	40代	50代	60代
0人	10人	8人	5人	3人	人

（ニ）その他

【グループホーム】

サンヒルズ

1. 運営概況

サンヒルズ（主）・クローバー（従）・オレンジ（従）・ユースセブン（従）・アップル（従）
サンヒルズを主とし定員24名、職員配置4：1での支援を行ってきた。

2. 事業報告

世話人の配置については夜間の短時間支援と分けて、日中の支援についてはバックアップ施設として就業・生活支援センター職員とジョブコーチが就業場所への訪問を行った。就業定着支援の一環として生活支援・指導も行い早期の問題解決に努めた。

3名の退所者については、1名の単身生活移行、ホーム利用者同士2名の婚姻による結婚生活への意向について対応を行った。物件探し・引っ越しの支援を行い、今後は就業・生活支援センターが必要に応じて生活支援を継続する。

設立当初より目的であった「地域での生活」については上記での退所者の報告にもあるとおり3名の移行者となる。

今期の特色としては高齢化に伴う相談と実支援の増加があった。当事者・家族からの今後についての不安相談（施設利用がいつまでできるのか？）。定年退職後の動向などの相談と、今までと違い精神的不調が長期的に現れている方への対応。知的障がい者の方の生活能力低下（食事・健康・清潔保持・伝達など）に対し支援手法の対応について改めて検討が必要になってきている状態である。29年度は巡回対応を強化し問題の早期対応に努めた。

①生活支援活動

やおき福祉会活動日の朝食・夕食提供。

生活指導（清掃・服薬・身だしなみ・休日の食事 他）

医療同行（精神科通院同行・その他の医療機関への同行）

②個別支援関係

就職相談・定着相談・個別の悩みの相談 など

3. 地域交流活動

特に無し（各ホームで町内会への加入はしている）

4. その他の活動

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		毎月木曜スポレク 毎月第一火曜日 ワーカーズ会議
5月		
6月		
7月	ワーカーズ BBQ	
8月	マナー講座	
9月		
10月	ワーカーズ旅行（京都）	
11月		
12月	ワーカーズ忘年会	
1月		
2月	交通安全研修会	
3月	防災・避難訓練	

6. 数値実績

ホーム名	サンヒルズ（全体）			
定員	28年4月 24人	29年3月 24人		
実利用者数	28年4月 22人	29年3月 19人		
職員常勤換算配置数	27年4月 6人	28年3月 6人		
年度中の入退所	入 所 退 所	0人 3人		
利用市町村内訳	田辺市	8人		
	白浜町	0人		
	みなべ町	1人		
	上富田町	2人		
	すさみ町	1人		
	その他	7人		

【就労継続支援B型】

古道ヶ丘

1. 運営概況

- ・地元職員（中辺路町在住）配置により、前年度できなかった地域バザー参加、授産製品の拡充（わらび、ぜんまい収穫）など幅広く活動を増やしていくことができた。

2. 事業報告

①就労支援活動

田辺市委託事業

- ・バンガロー清掃（宿泊、前後のセット及び清掃をおこなう）
- ・施設周辺維持管理（施設備品修繕、草刈りなど）
保養所の施設修繕、老朽化が進んでいる施設の維持管理において毎年、田辺市と協議をすすめている状況で 28 年度は、宿泊施設（バンガロー）のバルコニーの修繕を 13 棟、全棟の修繕を完了することができた。
- ・ブルーベリー収穫（栽培、収穫）
近隣の農園の指導を受け、取り組んだがいまひとつ収穫には結びつかなかった。
原因：鳥による被害→今後、鳥などの被害を防ぐ。ネットで覆う、植える場所を収穫しやすい場所に変更する。

授産事業

- ・27 年度よりはじめた内職作業も 2 年目となり次第に納品数も増えてきた。

②生活支援活動

- ・年 1 回の健康診断を実施した。
- ・防災計画に基づき年 2 回の防災訓練を実施した。
- ・利用者自治会主体で季節ごとのレクリエーションを企画し行った。

③個別支援関係

- ・個別アセスメントを行い支援計画に基づき支援を行った。
- ・SST（社会生活技能訓練）を取り入れ、基本的（礼儀作法など）なものを中心に行った。

3. 地域交流活動

- ・中辺路町小学校 4 年生のみなさんが来所し、施設見学、歌・楽器の演奏を聞かせてくれた。
- ・中辺路中学校から夏休みのボランティア体験として、施設利用者とともに箱折り作業、バンガロー清掃を行った。
- ・地域の祭り（近露まるかじり体験、ふれあい文化祭など）に参加した。

4. その他の活動

- ・施設の危機管理より不審者対策として警察講習をうけ、さすまたを設置した。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見	
5月	バザー	
6月	防災訓練	
7月		
8月		
9月	バーベキュー	
10月	おつかれさま会	
11月	ソフトボール大会	
12月	一泊旅行、クリスマス会	
1月	班別レク	
2月	ふれあい文化祭、防災訓練	
3月		

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
定員	28年4月 30人	29年3月 30人
実利用者数	28年4月 33人	29年3月 31人
1日平均利用者数	28年4月 24.8人	28年3月 25.5人
職員常勤換算配置数	28年4月 5.6人	29年3月 5.6人
年間稼働日数	総稼働日数 240日	休日開所日数 7日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	保養所委託事業関係	3,780,098円
	内職作業	513,620円
	アルミ缶回収など	352,907円
	計	4,646,625円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 15,000円	実績 11,426円

7. 利用者の年齢層

性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	0	3	5	2	2	2	14
女	3	4	3	1	6	0	17
計	3	7	8	3	8	2	31

【就労継続支援 B 型】

本宮くまのこ作業所

1. 運営概況

近隣バザーなどに積極的に参加し、くまのこ作業所の広報活動に力をいれ、地域交流を図った。休日開所を原則古道ヶ丘と合同で行い、参加しやすい行事を実施することで、利用者の参加意欲を促進し給付費増を図った。また可能な限り利用者の予定に合わせた送迎体制を組むことで通所しやすい環境を整えた。

2. 事業報告

①就労支援活動

箱折り、茶葉選別、野外作業を中心としつつ、自主製品（アクリルタワシ、ビーズストラップ）に力を入れた。箱折り作業では目標枚数を設定して、作業に対するモチベーションの増加を図った。今年度は地域の方と協力して地域イベントの餅まき用の餅作りを作業の一環として取り組む事が出来た。

②生活支援活動

年 1 回の健康診断を実施。

防災計画に基づき年 2 回の防災訓練及び非常食体験実施。

季節ごとのレクリエーションを企画及び実施。

③個別支援関係

個別アセスメントを行い、支援計画に基づき支援を実施。

3. 地域交流活動

本宮女性会の方々と本宮大社近くの花壇に花植えを実施。

定期的にゆる体操を実施し、地域ボランティアの方々との交流。

地域の方と協力してイベントの餅投げの餅作りをした。

4. その他の活動

本宮地域に事業所活動を周知する為、月 1 回「くまのこだより」を発行。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見・古道バイキング	
5月	古道バイキング	
6月	古道バイキング・ボウリングレク	
7月	花植え・古道レク	

8月	古道レク・大掃除・防災訓練	
9月	古道ヶ丘合同 BBQ	
10月	古道バイキング・餅作り	
11月	古道ヶ丘合同旅行・古道バイキング・花植え こだま祭りバザー・ソフトボール大会	
12月	父母の会合同クリスマス会・古道レク 古道合同クリスマス会・年末大掃除	
1月	初詣・古道バイキング・やおき新年会	
2月	ふれあい文化祭バザー・ボウリングレク	
3月	調理実習・健康診断・温泉レク・防災訓練	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援 B 型	
	28年4月	29年3月
定員	10人	10人
実利用者数	12人	12人
1日平均利用者数	10人	10人
職員常勤換算配置数	28年4月 2.87人	29年3月 2.87人
年間稼働日数	総稼働日数 252日	休日開所日数 13日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	自販機	659,330
	受託作業(清掃)	305,991
	内職(箱折り・お茶)	287,440
	自主製品	35,350
	アルミ缶・古紙回収	111,000
	バザー・わされん活動	110,607
	計	1,509,718
工賃実績(一人当たり)	当初目標 6,500円	実績 6,893円

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	2	0	1	0	2	5
女	0	1	1	1	3	1	7
計	0	3	1	2	3	3	12

【グループホーム】

こどうの家・第2こどうの家

1. 運営概況

- ・日中施設の古道ヶ丘・くまのこ作業所と協力して運営をおこなった。
- ・ゆめふる・サポートセンターゆう・ぼらんち等、各相談機関と連携を図った。
- ・家族との連携を深めるため、GHでの活動を報告した。

2. 事業報告

- ・年間で、8回の休日レクレーションを実施した
- ・利用者の健康管理で、インフルエンザの予防接種を実施（11月）
- ・防災計画に基づく防災訓練（大雨等による洪水を想定）の実施（9月）
- ・緊急用防災品の備蓄の準備・防災リュックの配布

①生活支援活動

- ・給食サービスの実施 朝食：火水金土日曜日 夕食月火木金土曜日
（株）南陽食品との契約を継続し、食事提供をおこなった
- ・掃除や洗濯など日以上生活力を身に付けるための家事援助や調理実習の実施
- ・休日のレクレーション買い物支援をおこなった
- ・病院への同行受診の実施
紀南こころの医療センターやその他の病院の受診の際、山間部であるため公共交通機関の不便さを鑑み、同行し場合によっては診察の補助をおこなった
- ・自治会の支援
毎月定期的を実施し、ホームでの生活について利用者同士で話し合うための支援をおこなった

②個別支援関係

- ・日々の生活費の使い方などの助言や管理支援をおこなった
- ・服薬についての助言や管理の支援をおこなった
- ・個別支援計画の作成に努め利用者個々にあった支援と生活の質の向上を目指した

3. 地域交流活動

- ・町内会への加入

4. その他の活動

- ・職員の直接処遇技術の向上のため、各種研修会に参加した

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	ネームプレート作り (女性)	10月	調理実習 サンドウィッチ
5月	調理実習 とんかつ定食	11月	ドライブ 宮子姫みなどフェスタ
6月	カラオケ	12月	
7月	ドライブ 道の駅すさみ 橋杭岩	1月	新年会 鍋
8月	調理実習 冷やし中華 おにぎり	2月	調理実習 お好み焼き
9月	外食レク お好み焼き	3月	

6. 数値実績

ホーム名	こどうの家		第2こどうの家	
	28年4月	29年3月	28年4月	29年3月
定員	5人	5人	6人	6人
実利用者数	5人	3人	3人	4人
職員常勤換算配置数	3.79人	3.79人	3.79人	3.79人
年度中の入退所	入 所 退 所	人 2人	入 所 退 所	1人 人
利用市町村内訳	田辺市	3人	田辺市	3人
	白浜町	1人	白浜町	1人
	みなべ町	人	みなべ町	人
	上富田町	1人	上富田町	人
	那智勝浦町	人	那智勝浦町	1人
	その他	人	その他	人

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	0	1	1	2	1	5
女	0	1	1	1	1	0	4
計	0	1	3	2	3	1	9

【就労継続支援 B 型】

龍の里作業所

1. 運営概況

本棟が開所して一年が経ち、柳瀬出張所の併用も定着し、作業の住み分けも安定してきた。しかし、西出張所の有効利用についてはこれといった活路が見いだせず、柳瀬出張所のトイレ工事期間中に一時的な利用をしたに留まり、経費削減のため 28 年度いっぱいをもって閉所とした。

2. 事業報告

①就労支援活動

授産活動では昨年同様、道の駅などに卸していた「よもぎの葉」「龍神杉のコースター」「クッキー類」の自主製品の販売が好調で、委託販売が軌道に乗ってきた。

便利屋や農産物の生産も固定客が付き、季節にもよるが安定した収入を得ることができた。地元での下請け作業については、納品に時間がかかるため、地元での請負作業の開拓が課題として残った。

龍神マッシュ組合では、下請け作業のシール貼りと企業内実習の工賃の引き上げを図ることができた。龍トピアの就労も安定して継続できている。

②生活支援活動

日々の生活課題や金銭管理などについては、社協と連携して制度の活用を行い、問題解決に努めた。

健康面で課題のある利用者に関しては毎月一回の健康相談を実施し、保健師の指導を受けている。

③個別支援関係

個別支援計画とサービス利用計画に基づき、主治医や関係機関と連携しながら個々の課題に基づいた利用者への支援を実施した。

3. 地域交流活動

例年通り、翔龍祭や地域のイベントに参加し、舞台発表では安来節と合唱を披露した。南部高校龍神分校の行事には、スケジュールが合わず参加することができなかった。

4. その他の活動

避難訓練（年二回）を実施。

5. 行事報告

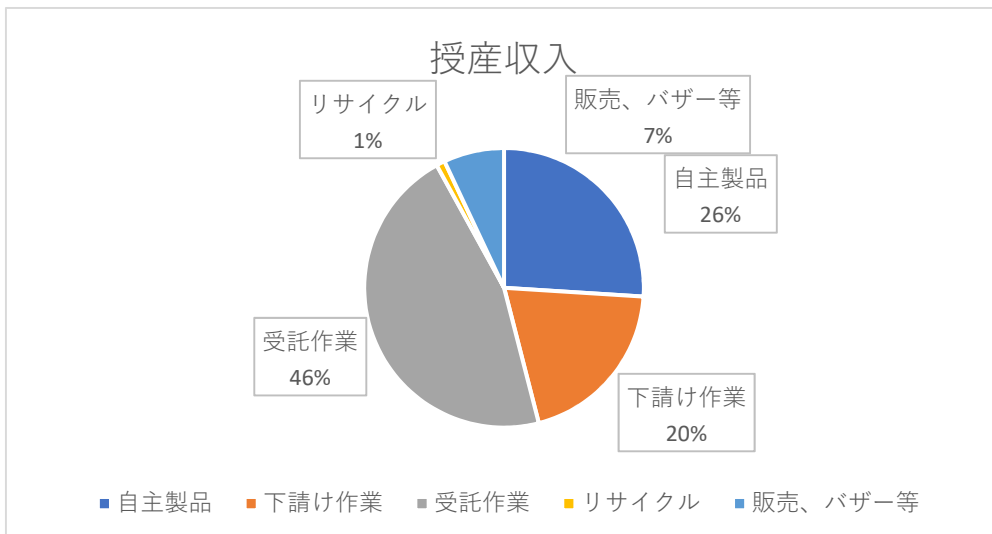
月	行事等	備考
4月	買い物レク（和歌山イオン）	
5月	屋外レク（新庄公園）	
6月	避難訓練、スポーツレク	
7月	健康診断（40歳以上）	
8月	買い物レク	
9月	高齢者交流会、グラウンドゴルフ大会	
10月	社協バスツアー（串本方面）	
11月	わされん運動会、翔龍祭	
12月	一泊旅行（箕面温泉、EXPO シティ）	
1月	初詣（本宮大社）、新年会	
2月	ふれあい文化祭、健康診断（39歳以下）	
3月	避難訓練、買い物レク（和歌山イオン）	

6. 数値実績

種別	就労継続支援B型	
	27年3月	28年3月
定員	20人	20人
実利用者数	22人	21人
1日平均利用者数	17.8人	16.4人
職員常勤換算配置数	5人	5.2人
年間稼働日数	総稼働日数 237日	休日開所日数 7日（うち振替3日）
工賃実績（一人当たり）	当初 10,000円	実績 8,314円

授産科目及び授産収入

科目		収入（円）
自主製品	焼き菓子・パンの製造	629,914
	雑巾、手芸品など	7,650
	龍神杉のコースター	89,246
	よもぎの葉	80,956
	アクリルたわし	12,903
	農作業	97,817
小 計		918,486
下請け作業	ねじ袋詰め	210,131
	梅種取り	247,967
	椎茸シール貼り	215,393
	梅シール貼り	34,550
小 計		708,041
受託作業	龍神マッシュ実習	279,750
	便利屋	200,900
	花いっぱい運動	1,182,000
小 計		1,662,650
リサイクル	アルミ缶回収	42,984
販売、バザー等	そうめん、うどん販売	106,120
	チョコレート、昆布販売	147,310
	その他	12,490
小 計		265,920
総 計		3,598,081
工賃実績（一人当たり）		実績
当初目標		8,314円
10,000円		



7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	0	3	1	6	1	11
女	0	1	2	5	2	0	10
計	0	1	5	6	8	1	21

【就労継続支援B型】

か〜む

1. 運営概況

前年度の平均利用者数15.0人に対し、今年度は14.2人と一日あたり1名程度減という結果となった。新規利用者の受入れが3名に対して、退所者が5名であり、登録者数が2名減員となったこと、また入院する必要が生じた利用者が複数名あったこと等が要因としてあげられる。退所者の内訳としては、他事業所への移行が2名、不調等による利用中断が3名という状況であった。

2. 事業報告

①就労支援活動

- (1) 箱折作業、梅の種抜き作業を継続して取り組み、収益の確保に努めた。
- (2) 内職関係の仕事において、原料がストップする事が時折見られるため、新規作業の導入を継続して検討を重ねた。日用品の袋詰め作業を導入し、作業参加の選択肢を広げると共に常時作業を実施できる状況となった。
- (3) ジュース販売を行なう事で、在庫数の管理や売上計算等の機会を設け、従事する利用者の能力向上や維持に努めた。バザー活動での地域交流の機会にもなった。

②生活支援活動

- (1) 支援が必要な利用者に対して、服薬管理や金銭管理を実施した。服薬や金銭については受け渡しに関するトラブルを防ぐため、記録を整備して行なった。
- (2) 利用者の親睦を深める事等を目的に、週に1回の定期的なレクリエーション活動を継続した。また、小グループでの班別レクも継続して実施した。

③個別支援関係

- (1) 利用者一人一人に必要な支援が効果的に実施できるよう、日々の相談対応や面談を適宜取り入れ支援した。個別支援会議を定期的実施する事で、個別支援計画作成、モニタリング等は遅延なく作成、振り返りを行なう事ができた。

3. 地域交流活動

町内行事でのバザー活動を行なった。地域行事への参加にも努めた。

4. その他の活動

一泊旅行の実施に向け、アンケート調査の実施や企画段階での参加希望集約を行なったが、多くの参加が望めない状況もあり、一泊旅行は実施しなかった。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	花見（弁当作り・動鳴気峡）	10月	BBQ（古道ヶ丘）防災訓練
5月	ウエスタンリーグ観戦（上富田町）	11月	紅葉（大銀杏）
6月	調理実習・スポレク	12月	クリスマス会
7月	買物レク（和歌山イオン）	1月	初詣、書初め、調理実習
8月	流しそうめん	2月	観梅（南部梅林）、防災訓練
9月	空の日フェスタ（白浜町）	3月	健康診断

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援 B 型	
	28年4月	29年3月
定員	20人	20人
実利用者数	23人	21人
1日平均利用者数	15.1人	13.8人
職員常勤換算配置数	4.8人	4.8人
年間稼働日数	総稼働日数 243日	休日開所日数 5日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	内職（梅・箱等）	667,333円
	依託作業（給食運搬）	312,690円
	ジュース販売	427,073円
	その他	179,650円
	計	1,586,746円
工賃実績（一人当たり）	当初目標 4,500円	実績 4,947円

7. 利用者の年齢層（平成29年3月末）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男			2人	3人	3人	1人	9人
女			2人	4人	4人	2人	12人
計			4人	7人	7人	3人	21人

【グループホーム】

ほわいとホーム

1. 運営概況

平成28年度は10名の定員に対して、入居者10名という状況から始まったが、年度途中で1名が単身生活に移行するため退所した。ただし、ひと月後には新規利用者の受入れすることとなり空床期間は比較的短く、また入居者の入院が年間4件あったもののひと月未満の比較的短い期間で退院する事ができた事もあり、平均利用者数は9.7名であった。入居者の高齢化や生活習慣病に対する支援の必要性が高まっており、食生活に対する支援や運動の機会を提供する等、健康的な生活の維持に努めた。

2. 事業報告

(ア) 生活支援活動

- ① 平日の給食提供を継続して実施した。休日については、食材の購入を支援する為、買い物の同行支援を実施した。また、月1回の調理実習を継続して実施し、調理体験を積む機会を提供した。
- ② 歩行運動の機会を持つと共に、必要な利用者には継続的な体重測定を実施し、体調維持・増進のための取り組みを行なった。
- ③ 居室整理や入浴の習慣化に対する支援を、継続して行い衛生面の向上に努めた。
- ④ 余暇活動支援として、休日におけるレクリエーションの頻度を増やし、利用者の意向に沿う取り組みを継続して実施した。

(イ) 個別支援関係

- ① 定期的な個別面談を実施し、アセスメントに基づく個別支援計画の作成を行ない、半期毎に定期的な見直し実施した。
- ② 支援が必要な利用者に対し、金銭管理や服薬管理等を行なった。

3. 地域交流活動

- ① 町内会の清掃活動に積極的に参加し、町内美化に協力した。
- ② 白浜町内で実施された防災訓練に参加した。

4. その他の活動

- ① 月1回の定例自治会を継続して実施した。自治会活動として行なう誕生日会やレクリエーション活動の企画立案、実施を支援した。
- ② 保護者懇談会を実施（参加者3名）し、活動報告を行なうと共に、意見交換の機会を持った。不参加の家族に対しては、懇談会の記録を作成し送付した。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	花見(平草原)・ドライブ(本宮大社)	10月	
5月	買い物レク	11月	BBQ、グラウンドゴルフ大会
6月	あじさい園・バラ園散策	12月	忘年会(外食)
7月	買い物レク	1月	初詣、保護者懇談会
8月	たきない夏祭り	2月	ふれあい文化祭、温泉レク(かんぼ)
9月	空の日フェスタ	3月	マナー講習会(外食)

1. 毎月定例：調理実習、自治会、ゴミブリ駆除点検

6. 数値実績

ホーム名	ほわいとホーム	
定員	28年4月 10人	29年3月 10人
実利用者数	28年4月 10人	29年3月 10人
職員常勤換算配置数	28年4月 2.6人	29年3月 2.6人
年度中の入退所	入 所 退 所	1人 1人
利用市町村内訳	田辺市	3人
	白浜町	1人
	上富田町	1人
	すさみ町	1人
	和歌山市	1人
	美浜町	1人
	串本町	1人
	紀宝町	1人

7. 利用者の年齢層(平成29年3月末)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男				3人		1人	4人
女				4人		1人	6人
計				7人		2人	10人

【就労移行・就労継続B型】

すまいる

1. 運営概況

今年度は、利用者確保が難しい年度になると思っていたが、新規相談者として就労相談から始まり就労に繋がり、障害者雇用の就労者が多い年であった。ぼのぼの工房も、開店してもうすぐ2年目を迎えるが、地域住民や福祉団体に協力してもらいながら地域密着で運営が出来るようになってきた。ぼのぼの工房を始め、施設外実習等は、社会性を身に付けていく訓練が実践の中で取り組み、企業内実習で利用者の訓練費アップにも繋がり、仕事への意識効果にも繋がっている。今後も協力事業所と連携を図り継続していきたい。

今年度の課題としては、身体障害者、高齢の利用者が増え、施設のバリアフリー問題や障害特性を把握した仕事内容を準備する事が出来なかった。今後は、他施設への視察を行い、情報交換し仕事内容を検討していきたい。

2. 事業報告

①就労支援活動

「就労移行支援」 就職者 6名（内1名トライアル雇用中）

- ・施設内訓練－軽作業の訓練を繰り返し、作業の正確性、持続性、耐久性、適度な速度での作業を行い、個々の特性を把握し課題に応じた就労訓練を行った。スピードを意識し作業する事よりも、正確性を重視し作業を行う利用者が多く、スピードを上げる就労訓練内容に苦慮する事が多かった。
- ・施設外訓練－みなべ町梅屋実習、就業センターとの連携実習に積極的に参加し、仕事する基礎体力、職場でのコミュニケーション等、個々に具体的な課題に取り組んでもらい、就労意欲向上を図った。

就労に繋げる期間として、サービス利用開始5カ月から2年3カ月のサービス利用で早期就労していく利用者が多い年であった。

反面、就労移行支援の期間延長を行い4～5年での就労に繋げる取り組みを、主に企業実習訓練で時間をかけ取り組んでいるが、仕事はこなせても、社会性の経験不足で就労実習期間が必要な利用者も増えている。

個々の課題に沿った就労訓練内容の充実が図れるよう、行政とのサービス調整を含め取り組んでいきたい。

- ・ぼのぼの工房－平成27年5月に開店し、就労移行の出張所としてもうすぐ2年。みなべ町飲食販売の店としてみなべ町内の人々に知られるようになった。接客業、菓子加工、調理加工の希望がある利用者は、ぼのぼの工房内の就労訓練で挑戦する事が出来るようになり、緊張度も高いが、スキルアップにも繋がっている。平成27年9月より、日替わりランチ提供を始め、みなべ町内では口コミで

顧客も増えてきている。

ぽのぼの工房の目的の1つである授産活動の固定収入を確保する目的は、バザー出店も行い、今年度も達成する事が出来た。来年度も売り上げを上げていく為にも、継続して地域のお客様、企業、福祉団体に周知してもらうよう宣伝に力をいれ、季節に応じたランチ、菓子作り等商品開発に取り組んでいきたい。

「就労継続支援B型」就職者 2名

- ・施設内訓練－昨年授産活動内容の見直しを行い、利用者全員が出来るだけ全種類参加出来る仕事メニュー作りを、個々の作業把握を行い取り組んだ。
関われる仕事内容が増えた事で、繁忙期等に多人数で関われるようになり効率よく仕事も終了出来るようになった。
- ・施設外訓練－施設外作業（梅加工業・梅採り・梅枝拾い・清掃業等）を行い、仕事する体力作り、仕事への意識付けを行った。また、就労移行支援より2名の利用者がサービス変更を行い、協力事業所での就労実習を2年継続し、サービス利用期間4年半から5年で就職に繋げる事が出来た。毎年1名就職に繋げていく事を継続していく為にも、個々の障害特性に応じた就労訓練内容の充実を図っていきたい。

②生活支援活動

「自立訓練」

- ・身だしなみ－歯磨き、洗髪、爪、服装チェックを、朝礼時2人1組になり毎日取り組む事で、本人の動機付けになり気にかける事が、出来るようになってきた。
継続して利用者、職員全員で取り組み、習慣づけていきたい。
- ・掃除、給食当番－自立訓練として、利用者全員に取り組んでもらっている。
継続して取り組んでいる為、施設内の美化にも繋がっている。継続して衛生面に気をつける意識を持ち続けるよう役割を考えていきたい。
- ・調理実習－調理実習は、年2回予定していたが、企業実習に行く利用者も増え、日程調整が難しく1回も開催する事が出来なかった。今後は、自治会活動で開催するか利用者と一緒に検討していきたい。

「健康管理」

- ・健康診断－通所者は、年1回健康診断を受けてもらい病気の早期発見、早期治療に努めた。
- ・体調管理－高齢利用者の対応は、本人、家族と話し合い経過を追いながら、介護担当のケアマネージャの方と調整を図り、介護サービス利用に繋げる取り組みを行った。
また、福祉サービス通所時の体調面の連絡も家族の方と頻繁に行った。
- ・受診同行－利用者の体調、精神の観察を行い、気になる利用者は、声かけ支援を行った。必要な際は、受診同行し主治医と情報交換等を行い、精神面の安定に繋がる支援に取り組んだ。緊急性が高い際は、家族、関係機関との連携を密にとり情報交換、情報共有を行い、緊急対応する体制作り、役割分担の確認を行った。

③個別支援関係

利用者の意向を尊重し、出来るだけ具体的な目標設定を心がけ支援計画の作成を

行った。定期的な振り返りを行い、目標達成後は、次の目標に移行、目標達成出来なければ継続もしくは、方向転換し違う目標設定を行った。本人の意向も大切であるが、家族の意向も確認しながら、個別支援計画作成に繋げていくよう心がけていきたい。また、行動障害がある利用者には、日常支援の中で虐待に繋がる支援をしていないか、日々職員会議で、振り返りを行い虐待防止に努めた。

3. 地域交流活動

みなべ町内施設公園（2ヶ所）、トイレ（3ヶ所）、館内（2ヶ所）の清掃を委託作業で取り組んでいる。地域住民が活用する場所なので、挨拶や声かけしてくれる機会が増え、利用者も交流する事に慣れてきている様子が伺える。

その他は、ぽのぼの工房の宣伝も含め、バザー活動を西牟婁圏域中心に取り組んだ。週末の休日参加の作業であるが、利用者も積極的に参加する事で、自信を持って声を出して呼び込んでくれる為、売上も増えている。

今年度もぽのぼの祭りを開催する予定であったが、準備不足で取り組めなかった。来年度は、みなべ町福祉団体、みなべ町内近隣の障害者、高齢者、地域住民との交流を目的とした祭りを開催する予定で計画していきたいと思う。

4. その他の活動

「相談事業」

みなべ町から委託で受けているみなべ町障害者相談支援事業と、計画相談事業を行った。障害者相談支援事業で継続して相談にのっている相談者は、51人（精神 23人・知的 12人・発達 10人・身体 5人・その他 3人）。51人中新規相談者は、13人であった。相談内容は、発達障害の相談は、高校卒業後の就労相談、身体障害の相談は、離職後の就労相談内容、精神障害の相談は、家族から断薬して精神不安定な状態が続いており入院への対応相談内容であった。

本人、家族に福祉サービス、医療サポートの情報提供を行い、安定が図れるよう相談業務を行ったが、困難事例も多く、相談事業所も2か所しかない為、相談業務を円滑に行っていく事が出来ず、年々懸念される事が増えてきている。今後の事を再度、行政、関係機関と協議し、相談事業体制の基盤作り、緊急時の体制整備を図っていく事が必要な為取り組んでいきたい。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	花見	10月	
5月	スポレク（上富田）	11月	日帰り旅行 （串本海中公園・南部ロイヤル）
6月	野球観戦（京セラドーム・イオン）	12月	クリスマス会
7月		1月	初詣（救馬溪観音・トマト&オニオン）

8月		2月	観梅（南部梅林）
9月		3月	日帰り・1泊旅行 （和歌山マリーナシティ）

6. 数値実績

事業種別	就労移行支援		就労継続支援B型	
	28年4月	29年3月	28年4月	29年3月
定員	7人	7人	20人	20人
実利用者数	7人	7人	26人	27人
1日平均利用者数	8.1人	5.4人	19.0人	19.9人
職員常勤換算配置数	2.5人	2.5人	4人	4人
年間稼働日数	総稼働日数	休日開所日数	総稼働日数	休日開所日数
	262日	37日	258日	35日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）	科目	収入（円）
	自主製（ぼの）バザー	1,136,267	自主製（ぼの）バザー	1,136,266
	施設内売上	588,520	施設内売上	1,373,213
	施設外売上	745,035	施設外売上	1,738,414
	受託作業		受託作業	759,555
	計	2,469,822	計	5,007,448
工賃実績（一人当たり）	当初目標	実績	当初目標	実績
	20,000円	34,080円	17,000円	21,560円

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	1	9	3	5	2	2	22
女	1	6	1	3	2	3	16
計	2	15	4	8	4	5	38

ぼのぼの工房出張所

1. 運営概況

平成 27 年 5 月、就労移行事業所出張所としてぼのぼの工房を開店。喫茶業務から始め、同年 9 月より週 3 回のランチ販売（限定 15 食）も始め、地域での顧客確保に努めた。もうすぐ 2 年目を迎え、今は顧客も増えてきておりランチ販売の安定は図れている。その他で、みなべ町で開催されるグランドゴルフ大会、2 月の観梅シーズンの際は、福祉施設の余暇活動での弁当注文もあり大きな売上げに繋がった。地域からもみなべ町内での弁当注文のニーズもあるが、調理、菓子加工する人材、設備も必要最小限にしか整っていない為、お断りしている。また、調理販売の安定は図れているが、菓子販売が低迷してきている為、新商品開発会議を定期的に行い、来年度の課題として検討していきたい

2. 事業報告

就労移行利用者、就労希望がある就労継続支援 B 型の利用者、食品加工に興味がある利用者に、実践で職場マナーの基礎訓練、仕事への動機付けを図る支援を行った。利用者ニーズで多いのは、接客業のほうで調理、菓子加工に興味ある利用者が少なく出来る作業から参加してもらおうが、上手く道具（皮むき器・包丁等）が使えない為、怪我に注意しながら一緒に作業を行い、少しずつ出来るようになってきている。金銭関係の仕事は、どの利用者も積極的に参加し、間違えないよう確認を行い取り組んでいる。その他で、アンテナショップとしての機能は、他施設の自主製品販売等を行いながら交流を図る場としても大変役に立っている。今後も他施設と授産活動の情報交換を行い、連携を図る場として地域発信していきたい。

3. 事業収支報告

維持管理に関する収支

収入	内訳	支出	内訳
2,795,253	給付費 2,795,253	1,800,000	家賃 1800,000 (150,000×12 ヶ月)
		50,124	水道 50,124
		74,982	ガス 74,982
		504,447	電気 504,447
		82,888	電話・インターネット 82,888
		104,845	ダスキン 104,845
		177,967	保守料 (アルソック・谷本・キャノン)
合計	2,795,253	合計	2,795,253

菓子等製造販売事業に関する収支

収入	内訳	支出	内訳
2,933,408	菓子売上・ランチ売上	1,197,696	材料費（ランチ・菓子）
919,496	バザー売上	53,037	雑貨材料費
		329,638	バザー材料
		2,272,533	利用者工賃
合計	3,852,904	合計	3,852,904

4. 地域交流活動

昨年度は、ぽのぽの工房を開所し、みなべ町福祉団体主催でぽのぽの祭りを2回開催したが、今年度は、連携を取る事が出来ず1年が過ぎてしまった。また、ワークショップ開催も準備不足で、開催出来なかった。来年度は、ぽのぽの会議を定期的に行い、企画会議も含め取り組んでいきたい。

5. 行事報告

年月	営業内容等	昼食の食事提供
4月	はっぴーまーけっと参加	週3日（月・水・金） 限定数での販売 日替わりメニュー （15食） 販売時間 （11：30～14：00）
5月	あきんどカーニバルバザー参加・ベアーズ参加	
6月		
7月	はっぴーまーけっと参加・かき氷・アイス販売	
8月	子供祭り参加	
9月	ベアーズ参加	
10月	ハロウィン参加・運動会等の菓子作り	
11月	グランドゴルフ弁当注文	
12月	クリスマス菓子注文	
1月		
2月	バレンタインデー菓子作り・弁当注文 観梅シーズンバザー・ふれあい文化祭参加	
3月	ホワイトデー菓子作り	

6. 数値実績

事業種別	就労移行支援	就労継続支援B型
実習人数	3名	2名
1日平均利用者	3名	2名
職員数(常勤換算)	2人(1.5)	
年間稼働日数	250日	
授産科目(支援科目)	<ul style="list-style-type: none"> ・菓子製造販売 ・飲食販売 ・移動販売 ・就労体験実習 (センター連携実習等)	
目標工賃	20,000円	
1日のスケジュール	(月・水・金 ランチ日) 9:00 朝礼 9:15~10:00 開店準備(清掃等) 10:00~14:00 開店 昼食販売時間 (11:30~14:00) 16:00 閉店 片付・明日準備・清掃	(喫茶日) 9:00 朝礼 9:15~10:00 開店準備(清掃等) 10:00~14:00 開店 喫茶開店時間 16:00 閉店 片付・明日準備・清掃

【グループホーム】

みなべ鹿島ホーム・浜市・サンフラワー

1. 運営概況

平成26年9月より外部サービス利用型共同生活援助サービスで、3ヶ所のGH運営を行っているが、GH施設の老朽化問題もあり、2年間安定した運営が出来ていない状況が続いている。今年度は、サンフラワーの移転を考えていく年であったが、女子入居者ニーズが、自立した単身生活希望が多かった為、単身生活への方向で進めていく事になった。みなべ鹿島ホーム、サテライト型ホーム利用者も、相談出来る人に相談し就労、生活の安定は図れているが、仕事の繁忙期時は、精神的な不安も多くなり不安定になる事もあり、事業所との調整、受診同行を行い精神面の安定に繋げる支援を行った。来年度は、女性GHの単身生活の拠点探しと、サテライト型GHの運営が3年で終了になる為、本人、家族との話し合いを持ち方向性を検討していきたい。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・平日の朝食、夕食提供－毎月の自治会で入居者よりリクエストメニューを聞き献立に入れ、手伝い等も積極的に取り組んでくれている。
入居者の希望は、一緒に食事し、賑やかにおいしく食べれるほうが良い意見が多くあった為、週3日は、みなべ鹿島ホーム、週2日はサンフラワーホームで合同食事提供を行っている。今年度は、年3回自炊する練習を調理実習で行った。その後、女性入居者達は、週末に自分達で調理する回数が増えたり、昼食の弁当作りを行ったりするようになり、自立していく意識付けが、少しでも出てきたように思う。また、長期休日の際は、入居者の希望を聞き、弁当での配食提供を行った。
- ・健康管理－就労先、施設等で健康診断を受け健康診断結果の確認を、入居者と一緒に行った。年齢と仕事内容にもよるが、腰痛の訴えや、生活習慣病等の入居者も増えてきている為、本人の様子を見ながら早期受診の声掛け、必要な際は受診同行を行い、主治医からの助言を一緒に聞き、日常生活で気を付け予防出来る事を行った。冬前は、インフルエンザ予防の為、入居者全員予防接種を受けてもらい集団感染予防に取り組み、1年間入居者全員大きな病気もなく、健康に過ごす事が出来た。
- ・GH掃除、自室の掃除－定期的な掃除チェックを行い、片付等がわからない場合は、一緒に取り組み整理整頓し衛生面への意識向上の取り組みを行った。毎月自治会の際に、みなべ鹿島ホーム、サンフラワー入居者から掃除当番、掃除方法等の話題が意見であり、入居者同士で話し合い、実行出来ている。浜市社宅は、単身生活の為、定期訪問を行い、掃除する機会を作り衛生面に気を付ける意識付けを図った。
長期休暇の際も、協力して掃除当番を交替しながら清潔に保つよう心がけてくれている。

- ・金銭管理－入居者全員の見守り支援の相談として多かったのは、お小遣いの金額と使い方。お小遣いの希望額を、本人と話し合い金額設定し取り組んでもらった。定期的に小遣い帳を確認しながら、本人と振り返りを行い、自分のお金は、自分で管理する意識付けを図っている。また、単身生活希望者は、単身生活に移行していく為の、貯金計画も視野に入れ、本人への促しを継続していきたい。
- ・買い物－1人で買い物に行く不安がある利用者は、世話人と一緒に行き買いたい物が、自分で選べるようになり、予算内で計算しながら買い物する事も、少しずつ出来るようになった。

②個別支援関係

個々に個別支援計画を作成し、定期的に入居者との振り返りを行い、自立生活の安定に繋がる支援を、本人の意向を聞きながら取り組んだ。

利用者の家族問題（親の高齢化問題）も増えてきており、利用者自身も家族の1人として動揺する入居者も増えている。入居者の日常生活の安定に繋げていけるよう、家族や関係機関との情報交換や情報共有を行い、必要な際は、相談にのり不安の軽減に努めた。また、就労している入居者は、就業・生活支援センターと月1回ケース会議で情報交換しながら、就労面、生活面の安定に繋げていく支援を行った。

3. 地域交流活動

今年度は、地域での溝掃除、集団防災訓練がなかった為、自主的に掃除を行った。地域交流する機会が少なくなっているが、みなべ町主催のバザー等に積極的に参加し、手伝い地域交流を図った。入居者達も、地域住民の方と触れ合う事が出来て楽しかった感想も多かった。地域参加で交流出来る場を見つけ、参加出来る際は、参加の促しを行っていこうと思う。

4. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		自治会
5月	避難訓練・溝掃除	自治会（レク関係）
6月		自治会
7月		自治会
8月	みなべ花火祭（サンフラワー）	
9月		自治会
10月		自治会
11月		自治会
12月	クリスマス会・忘年会・大掃除	自治会
1月		自治会（役員改選）
2月		
3月	避難訓練	自治会

6. 数値実績

ホーム名	鹿島ホーム・浜市		サンフラワー	
定員	28年4月 4人	29年3月 4人	28年4月 4人	29年3月 4人
実利用者数	27年4月 4人	28年3月 4人	27年4月 3人	28年3月 3人
職員常勤換算配置数	28年4月 1.5人	29年3月 1.5人	28年4月 1.5人	29年3月 1.5人
年度中の入退所	入 所 退 所	人 人	入 所 退 所	人 人
利用市町村内訳	田辺市	2人	田辺市	1人
	白浜町	人	白浜町	人
	みなべ町	1人	みなべ町	1人
	上富田町	人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	1人
	古座川町	1人	串本町	人

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男		2		1	1		4
女		1		1	1		3
計		3		2	2		7

【就労継続支援 B 型】

いなづみ作業所

1. 運営概況

28 年度後半、健康状態に不安のある利用者が数名出てきた。

日常の行動から認知症の疑いがあったり、健康診断で重篤な肺の疾患が見つかったりと、今後の支援を一層必要とする事案が増えた。

また、利用者の家族の高齢化も問題になっており、行政及び社協との連携を密にして対応してきた。

経営的視点では、高齢者のほとんどが毎日通所している利用者であり、通所が困難になると、給付費収入が大幅な減収になると予想される為、若い利用者の確保が急務だと考える。

2. 事業報告

①就労支援活動

3 人の利用者が 27 年 4 月より一般就労に至り、今年度も就労を継続する事ができた。

太陽光発電所の管理業務を請け負ったが、今年度は業務量が多くなかった為、今までの草刈業務も平行して行ない、大幅な工賃アップとなった。

生協の配達作業に関われる利用者が少なくなり、ほとんど職員のみでの作業になってきた為、28 年度一杯で撤退する事にした。

②生活支援活動

利用者の高齢化に伴い、高血圧、糖尿病等の罹患者が増えており、定期受診に同行すると共に、ご家族やヘルパー事業所と情報共有しながら服薬や食生活の見守りを行ってきた。また、衛生面や身だしなみに気を使わない利用者が多いため、必要性の理解を促しながら指導を行っている。

③個別支援関係

自立した日常生活及び社会生活を営むことを目標に、本人の希望を聞きながら個別支援計画を作成し、それを職員間で共有しながら支援を行ってきた。高齢の利用者については、作業よりも生活支援に重きを置く傾向になってきているが、無理のない範囲で作業に関わることで、体力、認知機能維持に役立っているのではないかとと思われる。

3. 地域交流活動

町内行事に積極的に参加し、いなづみ作業所の存在を広く町民に知ってもらっている。同時に、バザーの売り上げによる工賃アップにも繋がっている。

4. 相談支援事業

新規の相談は年間 10 件程で、いなづみ作業所利用に繋がったのはその内 2 名であった。しかし、高齢者が多いため、生活支援の比重が大きくなっており、様々な問題で、行政、居宅介護支援事業所、ご家族等と連携しながら支援を行ってきた。

5. その他の活動

相模原の障害者施設殺傷事件を受け、不審者進入時の対応の訓練を実施した。また、作業棟滞在時に津波が発生した場合を想定し、非難指定場所までの移動訓練を行った。

6. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	愛の会和歌山バザー参加 花見（紀三井寺）	12月	沖縄旅行 すさみ町愛のバザー参加
5月	イノブタまつりバザー参加 アドベンチャーワールド	1月	初詣
6月	町家カフェ見学と食事、買い物	2月	和歌山城見学、外食
9月	湯浅醤油の蔵見学と白崎海岸、 カフェでランチ	3月	いきいきふれあいまつりバザー参加 自治会
11月	町民運動会バザー参加 紅葉狩り（護摩壇山）		

7. 数値実績

事業種別	(例) 就労継続支援B型			
定員	28年4月	20人	29年3月	20人
実利用者数	28年4月	23人	29年3月	23人
1日平均利用者数	28年4月	16人	29年3月	15人
職員常勤換算配置数	28年4月	4.5人	29年3月	4.5人
年間稼働日数	総稼働日数	251日	休日開所日数	12日
授産科目及び授産収入 (別紙参照)	科目	収入(円)		
	自主製品	176,510円		
	物品販売	292,623円		
	バザー	635,750円		
	受託	2,441,570円		
	便利屋、その他	1,508,317円		
	計	5,368,840円		
工賃実績 (一人当たり)	当初目標	実績		
	時給 444円	時給 527円		
	月給 14,412円	月給 16,746円		

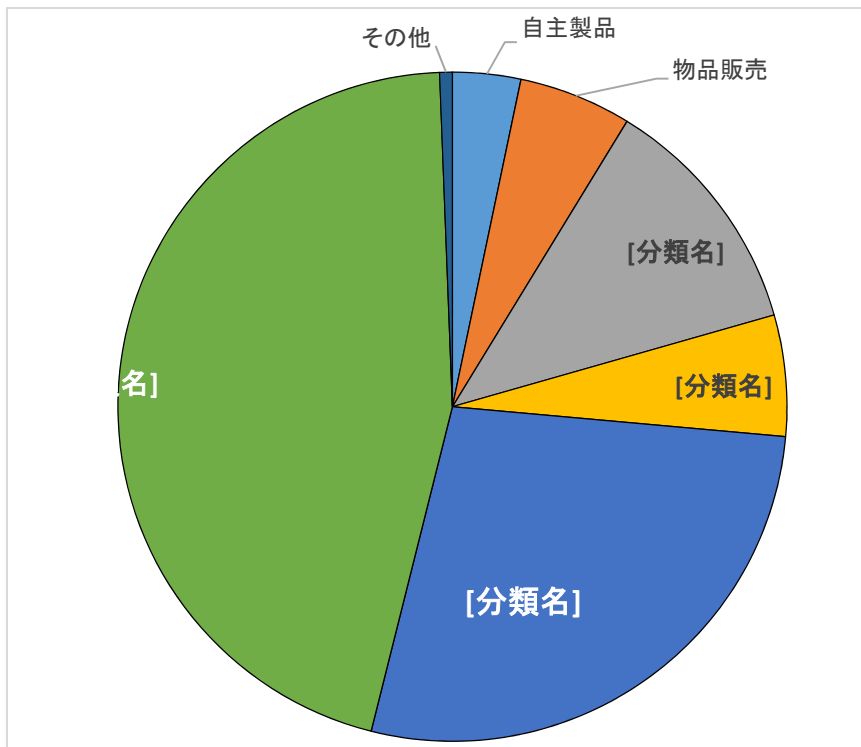
8. 利用者の年齢層

性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	2	3	4	1	7	1	18
女	0	0	1	2	1	1	5
計	2	3	5	3	8	2	23

<別紙>

平成 28 年度 いなづみ作業所 就労支援事業年間売上集計表

自主製品	野菜	21,050	3.3%
	肥料	152,660	
	石けん	2,800	
	小計	176,510	
物品販売	自販機	42,013	5.5%
	ちゃんぽん販売手数料	22,360	
	そうめん利益	51,750	
	ジュース売上	176,500	
	小計	292,623	
バザー		635,750	11.8%
リサイクル	古紙回収	214,620	5.8%
	アルミ	99,450	
	小計	314,070	
便利屋	墓掃除	130,500	27.5%
	草刈	1,053,804	
	洗濯機・TV処分	12,000	
	洗車	197,360	
	掃除	81,625	
	小計	1,475,289	
受託作業	若者広場	171,000	45.5%
	太陽光発電所管理	960,000	
	洗濯	543,900	
	生協	766,670	
	小計	2,441,570	
その他		33,028	0.6%
合計		5,368,840	100.0%



【グループホーム】

南紀の台ホーム

1. 運営概況

年度当初 5 名で開始し、6 月に地域移行支援で体験を重ねていた 1 名が入所、7 月にはホーム生活での逸脱行為が重なりグループホームから 1 名が退所する。10 月にはやおき工場の在宅利用者が保護者の状態悪化で 1 名を受け入れ、他法人のグループホームから 1 名を受け入れた。年度末で利用者は 7 名（満床）となっている。

職員体制は世話人 2 名体制（常勤換算 1.5 名）で、やおき工房がバックアップした。

現在の利用者の日中活動としては、一般就労が 1 名、やおき工房 4 名（就労移行 1 名、就労継続 B 型 3 名）、すまいる 2 名（就労移行 1 名、就労継続 B 型 1 名）となっている。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・平日の朝食・夕食の給食サービスを提供した。
- ・毎週（土）には館内清掃を行い、共有スペースの清掃を利用者が協力しながらできるように支援した。
- ・トイレ掃除やフロアの準備・掃除・ゴミ出し等については利用者持ち回りでかかわれるように支援した。
- ・自治会活動をサポートし、利用者同士で話し合い解決できるよう支援した。また、自治会主体で行事等の企画実施ができるように支援した。
- ・土曜日は外食支援や買い出し支援・余暇支援を行った。
- ・やおき工房がバックアップを行い、毎週（水）の夜間や世話人不在時及び緊急時の支援を行った。

②個別支援関係

- ・個別支援計画を作成し、関係機関や家族等と連携しながら必要な支援を行った。
- ・必要に応じて金銭管理を行い、適切に管理できるよう支援した。
- ・必要に応じて服薬管理や受診同行等の支援を行い健康面に配慮した。
- ・必要に応じて買い物同行支援を行い、必要な買い物ができるように支援した。
- ・必要に応じて手続きの同行等を行い支援した。
- ・衛生面の保持が難しい利用者には、定期的に洗濯や掃除等の家事援助を行った。
- ・肥満傾向の利用者が増えてきている。ダイエット等の取り組みも必要になってきている。
- ・多飲酒による問題やその他さまざまな問題から一般就労が困難になり、就業センターやおき工房・保護者等と連携しつつ、職場復帰への支援を行った。結果としては退職して作業所での再訓練することとなった。

3. 地域交流活動

- ・南紀の台町内会に賛助会員として加盟した。
- ・A コープ『アピア』の南紀の台地区の出張販売の場所確保に協力し駐車場を使ってもらった。
- ・自宅に戻る利用者について一部近隣住民から受け入れを反対されるということがあった。町役場や相談支援事業所等と連携しながら対応した。

4. その他の活動

- ・保護者懇談会は開催しなかったものの、必要に応じて保護者と連絡を取る等した。
- ・防災訓練を12月に実施し、通報や避難の講義や煙からの避難の体験を行った。
- ・紀南こころの医療センターから1名、岩崎病院から1名を退院に向けて体験利用を受け入れた。1名が入所、もう1名は中断となった。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	自治会	10月	自治会
5月	自治会、誕生会	11月	自治会、誕生会（トマト&オニオン） 紅葉狩り&温泉ツアー（龍神温泉）
6月	自治会	12月	自治会 クリスマス&忘年会（焼肉でん）
7月	自治会	1月	自治会
8月	自治会、BBQ	2月	自治会
9月	自治会 スポレク（ソフトボール・バレー）	3月	自治会 年度末食事会（松島園）

6. 数値実績

ホーム名	南紀の台ホーム	
定員	27年4月 7人	28年3月 7人
実利用者数	27年4月 5人	28年3月 7人
職員常勤換算配置数	27年4月 1.75人	28年3月 1.75人
年度中の入退所	入 所 退 所	3人 1人
	田辺市	2人
	白浜町	1人

利用市町村内訳	上富田町	2人
	古座川町	1人
	那智勝浦町	1人
	新宮市	1人

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男		2	3	2	1		8
女							
計		2	3	2	1		8